

5. 駐輪

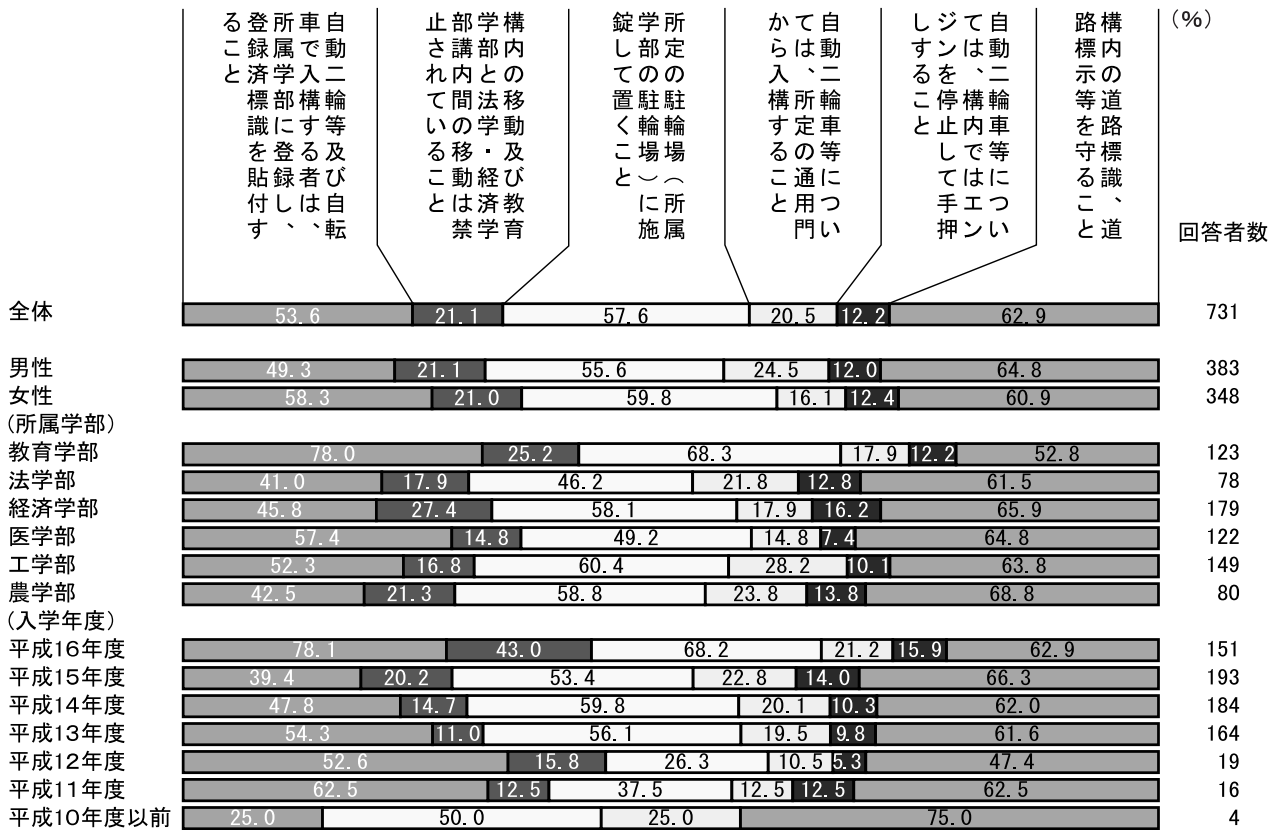
(1) 構内交通規則を知っているか

構内で道路標識・標示を守ることは、62.9%が知っていますが、自動二輪車を手押しすることは、12.2%しか知りません。

構内の道路標識・標示を守ることや所定の駐輪場に施錠して置くことは、それぞれ62.9%、57.6%が知っていましたが、逆に自動二輪を構内で手押しすることや所定の通用門から入構することを知っているのは、12.2%と20.5%であり、また、構内の移動及び教育学部と法学・経済学部構内間の移動が禁止されていることを知っている割合は、21.1%と大学構内特有の交通規則に関しては十分に理解されていないことがわかりました。

注：総人数の結果をもとにしています。

〈図 88〉 問 48 本学では、構内の交通安全と教育環境の美化を保持するため、香川大学構内自動二輪車・原動機付自転車及び自転車交通規制実施要項に基づき、交通規制を行っております。あなたは、要項に定める交通規制の内容をどのくらい知っていますか。(複数回答可)

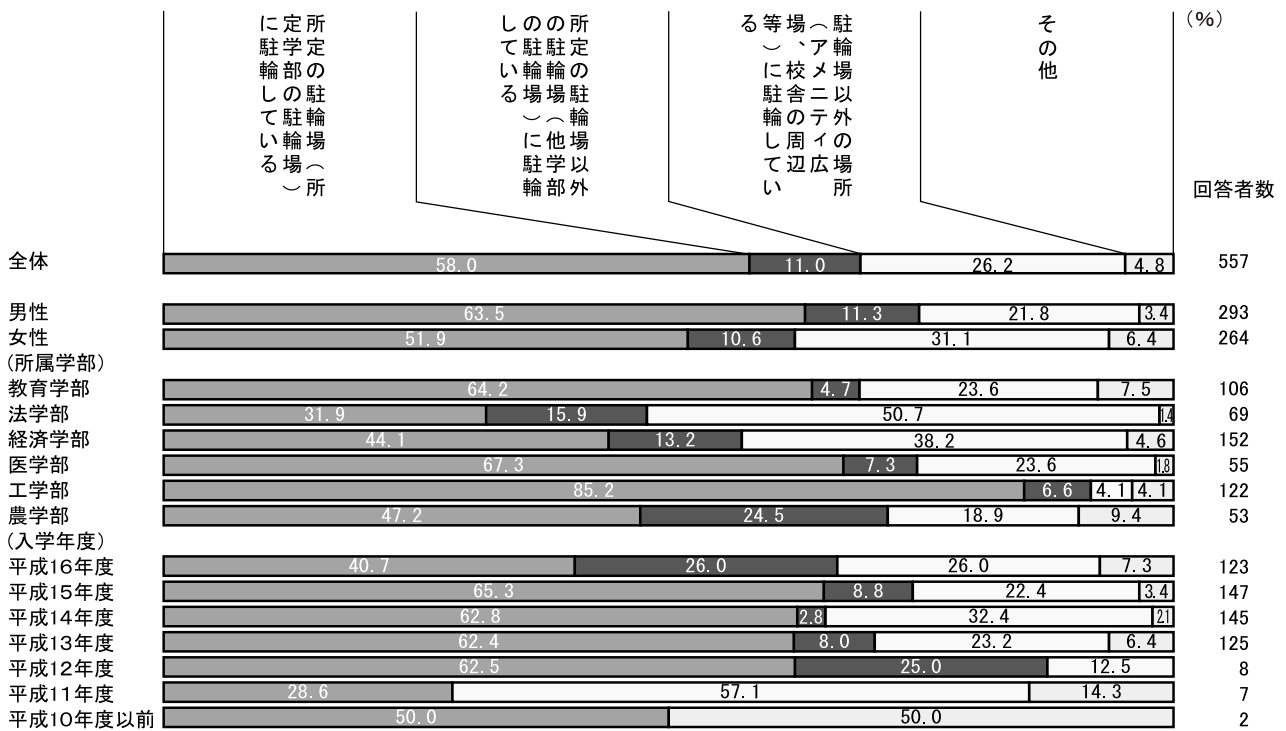


(2) 駐輪状況

所定の駐輪場に駐輪しているのは、6割以下です。

所定の駐輪場に駐輪しているのは、58.0%であり、駐輪場以外の場所では、アメニティ広場や校舎の周辺等に26.2%が駐輪しています。男女で比較すると男子が63.5%と決められた駐輪場に駐輪している割合が女子の51.9%よりも高いことがわかります。学部別では、法学部や経済学部が、それぞれ31.9%と44.1%と所定の駐輪場に駐輪している割合は他の学部よりも低くなっています。駐輪状況は決して良い状況にあるとは言えないように思います。

〈図 89〉 問 49 自動二輪車等及び自転車で通学している人におたずねします。あなたは、所定の駐輪場（所属学部の駐輪場）に駐輪していますか。



(3) 所定の駐輪場以外を使用の理由

駐輪場が少ないことや講義室から遠いこと等が主な理由

169 件の回答のうち、所定の駐輪場以外に駐輪している理由の内、もっとも多かったのが、所定の駐輪場のスペースが不足しているということでした。これは、講義室に近い駐輪場に停めたいという学生の心理が根底にあり、その意味において駐輪場が少ないという感覚があるものと思います。ただし、全体としての駐輪場の数が、必ずしも十分とは言えないことも現実にはあります。学生側からの要望としては、できるだけ講義室に近いところに駐輪場を設置してほしいという意見が多く見られました。

問 50 問 49 で「1」以外を選択した人におたずねします。その理由はなんですか。
簡単に記入願います。

(主な内容)

- ・置き場が少ない狭い。
- ・駐輪場は狭くて教室から遠いから。
- ・屋根付きの駐輪場が足りないし、せまく感じる。
- ・所定の駐輪場を知らない。
- ・ルールがあることを知らなかったから。

6. ハラスメント

「ハラスメント」は、今回の調査から新たに加わった項目です。ハラスメントとは、他人に不快感を与える性的言動（セクシュアル・ハラスメント）だけでなく、その他人種、国籍、出身地、宗教等、広く人格に関わる事項について、当事者の尊厳を損ない不快となる言動をいいます。ここでは、ハラスメントを受けた経験の有無、ハラスメントの相手、ハラスメントを受けたときの対応、相談の相手、ハラスメントによる影響、ハラスメント防止規則の知識などを尋ねることで、その実態の把握に努めました。

(1) ハラスメントを受けた経験

1割近くの学生がハラスメントを「受けたことがある」と答えています。

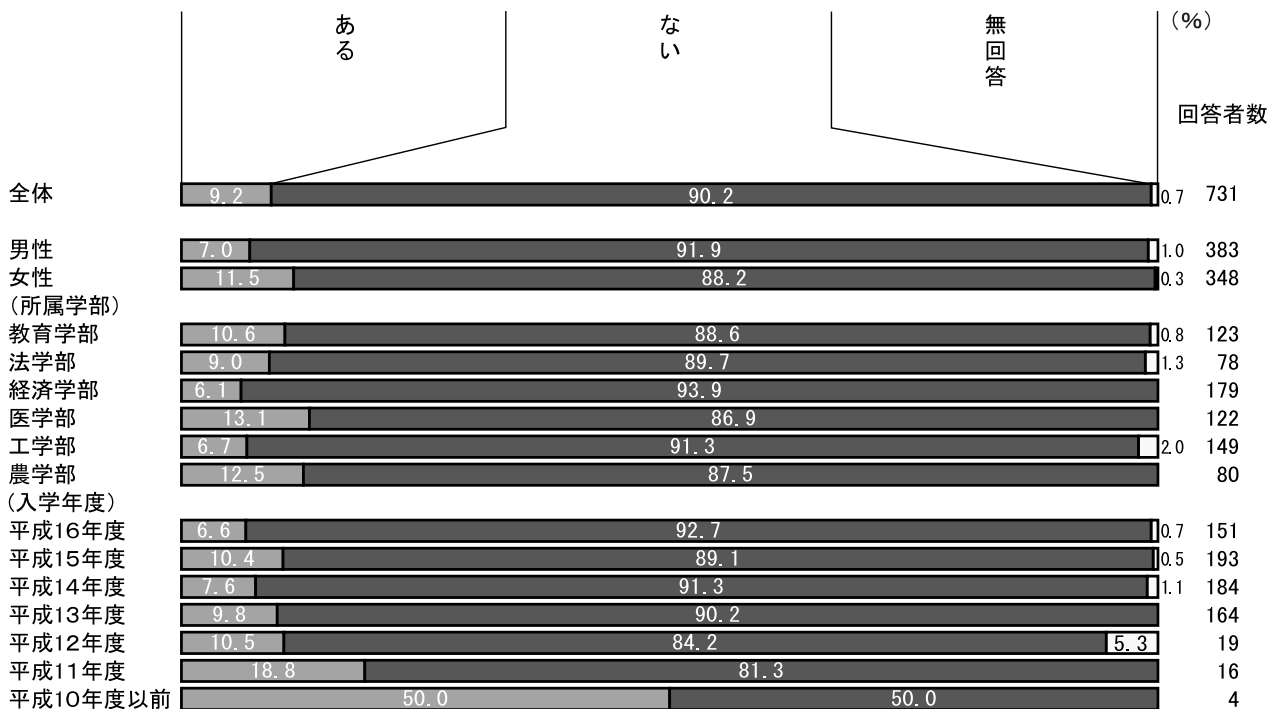
まず、ハラスメントを受けた経験の有無について尋ねました。ハラスメントを「受けたことがある」と答えた学生は9.2%、「受けたことがない」と答えた学生は90.2%で、全体の1割近くの学生がハラスメントを「受けたことがある」と答えていました。

男女別に見ると、男子学生では7.0%、女子学生では11.5%となっていました。

学部別に見ると、ハラスメントを「受けたことがある」と答えた学生は、医学部13.1%、農学部12.5%、教育学部10.6%、法学部9.0%、工学部6.7%、経済学部6.1%の順となっていました。

入学年度別に見ると、学年を通して6～10%の学生が「受けたことがある」と答えていますが、平成11年度入学の学生では18.8%、平成10年度以前入学の学生では50%と非常に高い数字になっています。これをどのように解釈するかは難しいのですが、まずは平成12年度、11年度、10年度以前入学の学生に関しては、他の学年に比べて回答者数が著しく少ないこと（データの偏りの可能性）を考慮しなければなりません。ただ一方では、これらの学生が「ハラスメントを受けたことがある」と答えているという事実も真摯に受け止め、改善に向けた対策を講じていく必要があると思われる。

〈図90〉 問51 ハラスメントとは、他人に不快感を与える性的言動（セクシュアル・ハラスメント）、その他人種、国籍、出身地、宗教等、広く人格に関わる事項について、当事者の尊厳を損ない不快となる言動を言います。あなたは、ハラスメントを受けたことがありますか。



(2) ハラスメントの相手

ハラスメントの相手としては「教員から」「サークルの仲間から」と答えています。

(1) でハラスメントを「受けたことがある」と答えた人に対して、その相手を尋ねました（複数回答可）。

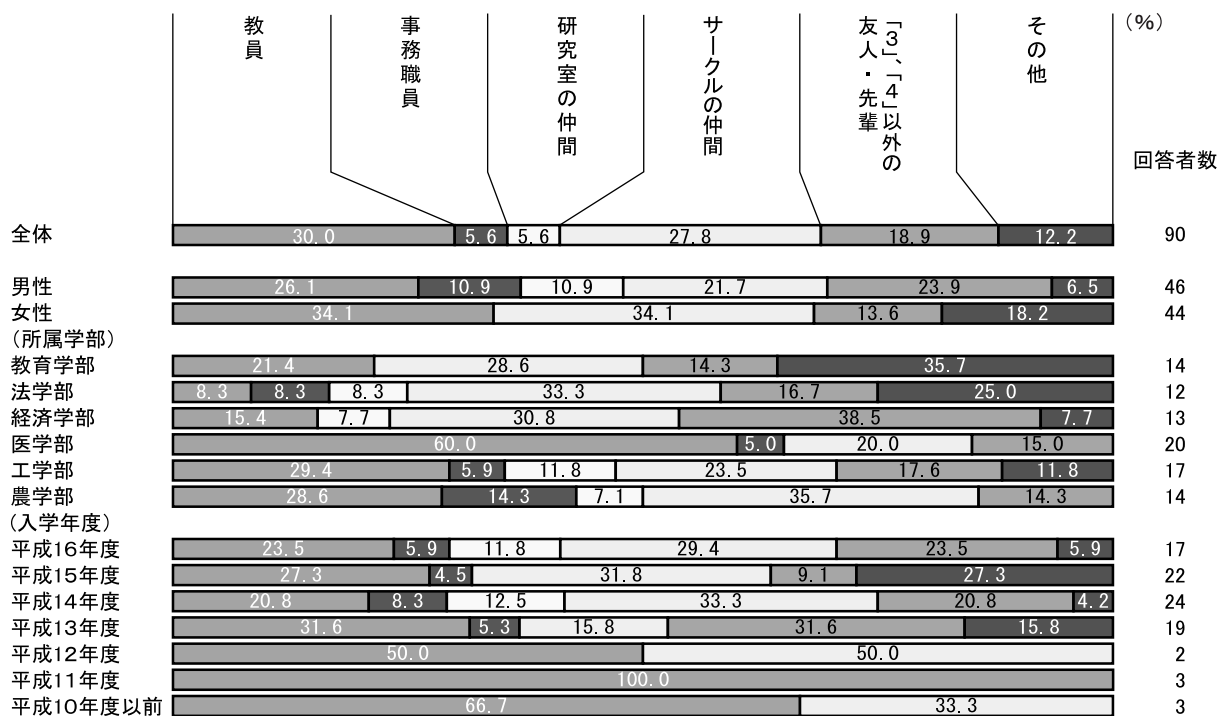
まず、ハラスメントの相手としては、「教員から」が 30.0 %、「サークルの仲間から」が 27.8 % と多く、以下「3、4以外の友人・先輩から」18.9 %、「事務職員から」5.6 %、「研究室の仲間から」5.6 %と続いていました。

これを男女別に見ると、男子学生では「教員から」26.1 %と「3、4以外の友人・先輩から」23.9 %、「サークルの仲間から」21.7 %の3つがほぼ同じ割合であるのに対して、女子学生では「教員から」と「サークルの仲間から」が共に 34.1 %と高くなっています。

学部別に見ると、「教員から」と答えた学生は医学部で 60.0 %、工学部 29.4 %、農学部 28.6 %、教育学部 21.4 %、経済学部 15.4 %、法学部 8.3 %となっていました。また、「サークルの仲間から」と答えた学生は全学部にわたって 20 %以上存在し、農学部では 35.7 %、法学部では 33.3 %となっていました。

入学年度別に見ると、1年生では「教員から」「サークルの仲間から」「3、4以外の友人・先輩から」がほぼ同じ割合ですが、2年生になると「その他」の人からハラスメントを受けたと答えた人が急増しています。これは大学生活2年目を迎えた学生の活動範囲（対人関係）の広がりを見せているようにも思われます。また、4年生になると「サークルの仲間から」が半減し「教員から」と「3、4以外の友人・先輩から」が増加していますが、これは学生生活サイクルの変化（卒業研究や就職活動を中心とした生活へ）による対人関係の変化が関係しているものと思われます。

〈図 91〉 問 52 どんな人からハラスメントを受けましたか。（複数回答可）



(3) ハラスメントを受けたときの対応

ハラスメントを受けたとき、7割以上の方が「何もしなかった」「冗談ですまそうとした」「無視した」など自分一人で処理（我慢）せざるを得なかったと答えています。

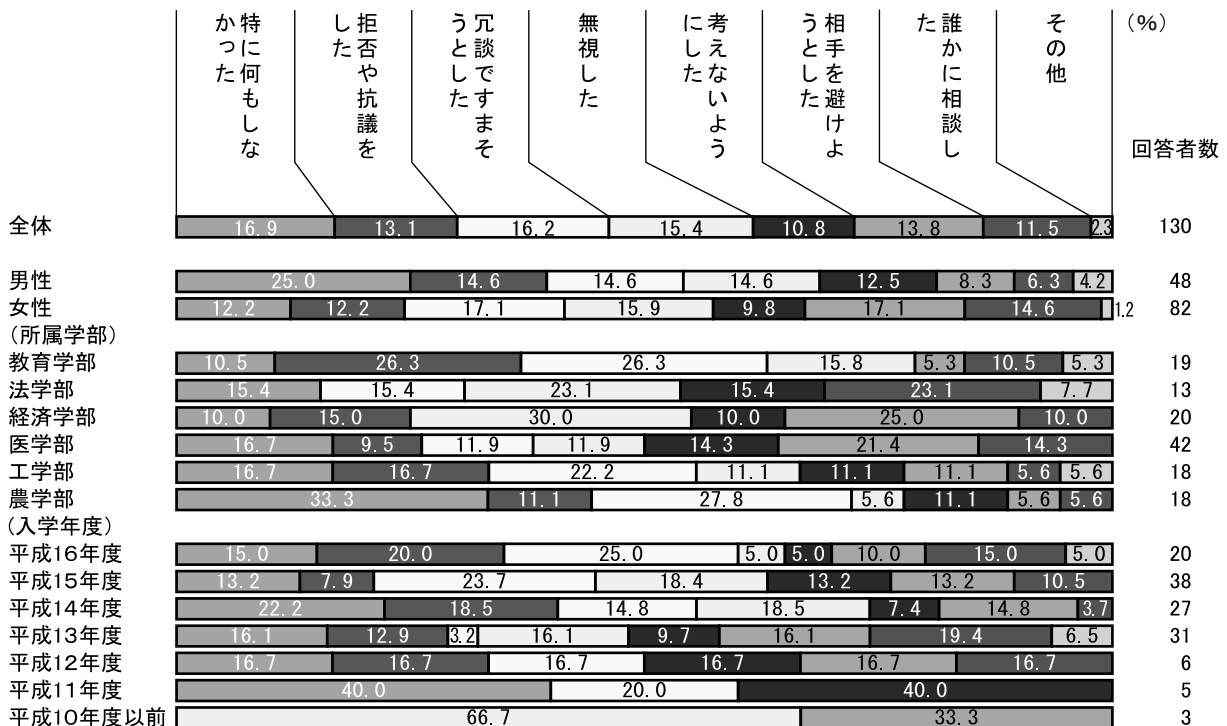
(1) でハラスメントを「受けたことがある」と答えた人に対して、ハラスメントを受けた時の対応について尋ねました（複数回答可）。

一看するとばらついた結果ですが、よくみると、ハラスメントを受けたと答えた人の実に70%以上が「何もしなかった」「冗談ですまそうとした」「無視した」「相手を避けようとした」「考えないようにした」など、自分一人で処理（我慢）せざるを得なかった現状が浮かび上がってきます。ハラスメントを受けた人が「拒否や抗議をする」「誰かに相談する」（2つを合わせても24.6%）のように“何らかの形で声をあげる”ことは、数字の上からも非常に困難であることが推測されます。

男女別で見ると、男子学生では「何もしなかった」が25.0%で最も多く、次いで「拒否や抗議をした」「無視した」「冗談で済まそうとした」が14.6%で同率でした。女子学生では「冗談で済まそうとした」「相手を避けようとした」が共に17.1%最も多く、次いで「無視した」15.9%、「誰かに相談した」14.6%となっています。

学部別の結果もばらつきが大きいため限られた紙数で詳細を述べることはできないのですが、「拒否や抗議をした」と「誰かに相談した」の2つを“何らかの形で声をあげた学生”とみなして結果を見ると、“声をあげた学生”は教育学部で36.8%と最も多く、法学部、経済学部、医学部、工学部ではおよそ20～25%、農学部では16.7%と最も少ないという結果になりました。

〈図 92〉 問 53 ハラスメントに対して、あなたはどのように対応しましたか。（複数回答可）



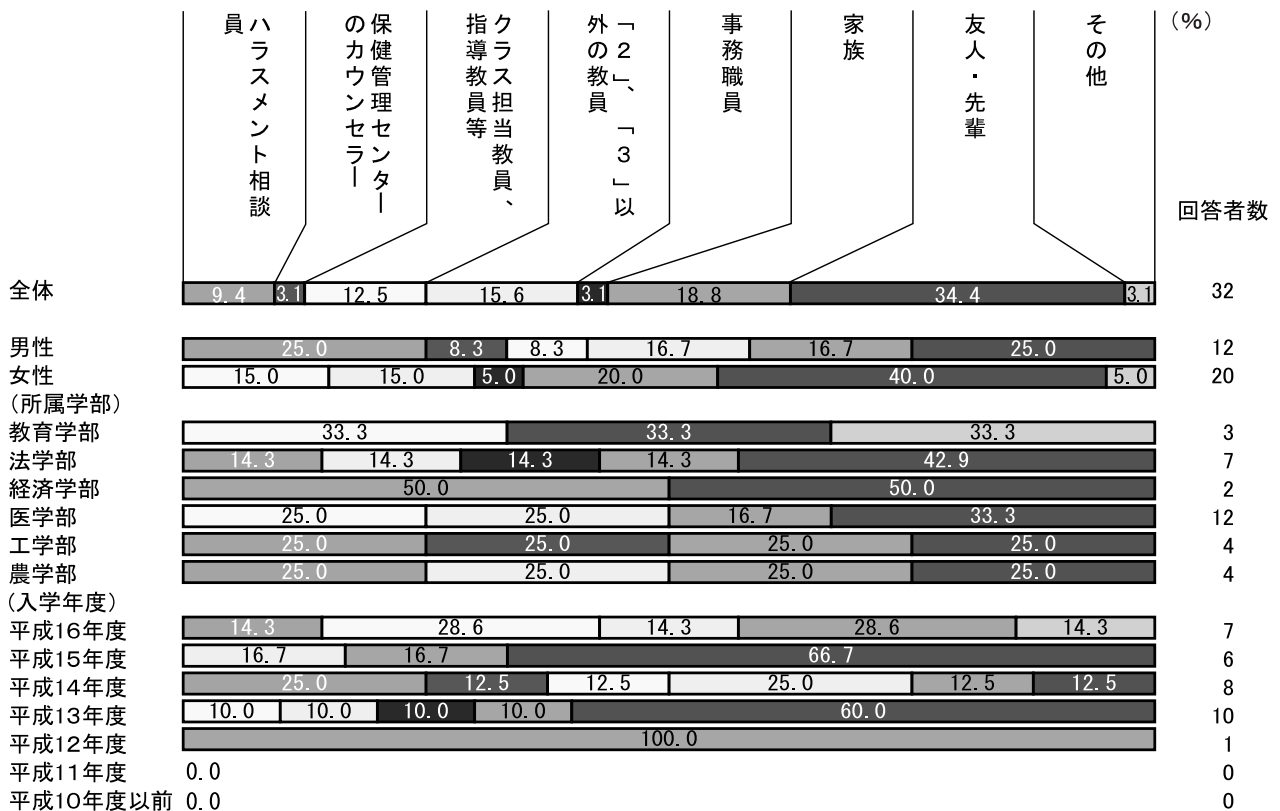
(4) 相談した相手

ハラスメントを受けたとき、「友人・先輩」や「家族」に相談した人が多いようです。

(3)で「誰かに相談した」と答えた人に対して、相談した相手について尋ねました(複数回答可)。一番多いのは「友人・先輩」で34.4%、次いで「家族」18.8%、「2、3以外の教員」15.6%、「クラス担当教員、指導教員等」12.5%となっていました。なお、「ハラスメント相談員」は9.4%、「保健管理センターのカウンセラー」は3.1%でした。

男女別に見ると、男子学生は「友人・先輩」と「家族」だけでなく「教員」や「ハラスメント相談員」などにも相談していますが、女子学生は「友人・先輩」と「家族」がその主な相談相手となっていることが分かります。

〈図93〉 問54 問53で「7」と答えた人のみ回答願います。相談した相手は誰でしたか。(複数回答可)



(5) ハラスメントによる影響

ハラスメントによる影響として、“心身に不調をきたした人”が26.9%、“勉学に何らかの支障が出た人”が25.9%、中には「進路の決定、成績の決定で不利な取り扱いを受けた」という人もいました。

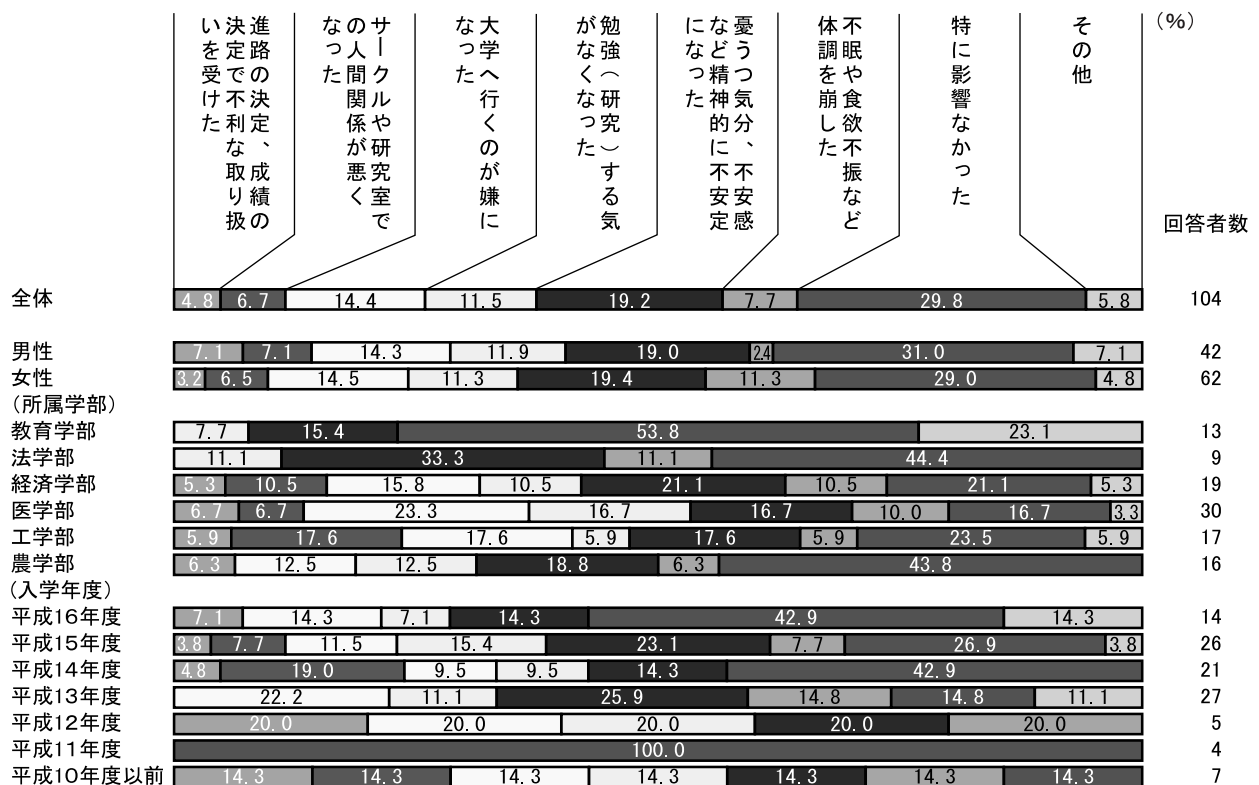
(1) でハラスメントを「受けたことがある」と答えた人に対して、ハラスメントによる影響について尋ねました（複数回答可）。

「特に影響がなかった」と答えた人が29.8%と最も多いのですが、“心身に不調をきたした人”も26.9%（「精神的に不安定になった」19.2%、「体調を崩した」7.7%），“勉学に何らかの支障が出た人”も25.9%（「大学に行くのが嫌になった」14.4%、「勉強する気がなくなった」11.5%）いました。また、中には「進路の決定、成績の決定で不利な取り扱いを受けた」という人も4.8%いました。

男女別に見ると、男子学生において「進路の決定、成績の決定で不利な取り扱いを受けた」という人が多く（男子学生7.1%、女子学生3.2%）、女子学生において「不眠や食欲不振など体調を崩した」という人が多い（男子学生2.4%、女子学生11.3%）ほかは、男女で大きな違いは見られませんでした。

学部別にみると、法学部では「精神的に不安定になった」という人が33.3%と多く、医学部、経済学部、工学部、農学部では「大学に行くのが嫌になった」「勉強する気がなくなった」といった勉学に何らかの支障が出たと答えた人が25～40%と多いのが特徴的です。

〈図 94〉 問 55 ハラスメントはあなたにとってどのような影響がありましたか。（複数回答可）



(6) 本学のハラスメント防止規則を知っているか

半数以上の人は、本学にハラスメント防止規則があることを知りません。

それでは本学のハラスメント防止規則をどの程度の人を知っているのでしょうか。

「規則の内容を知っている」と答えた人は僅か3.3%に過ぎません。「規則があることは知っているが、内容は知らない」と答えた人も39.7%に留まり、「知らない」と答えた人は52.1%に上りました。半数以上の人には、本学にハラスメント防止規則があることすら認知されていない、ということになります。

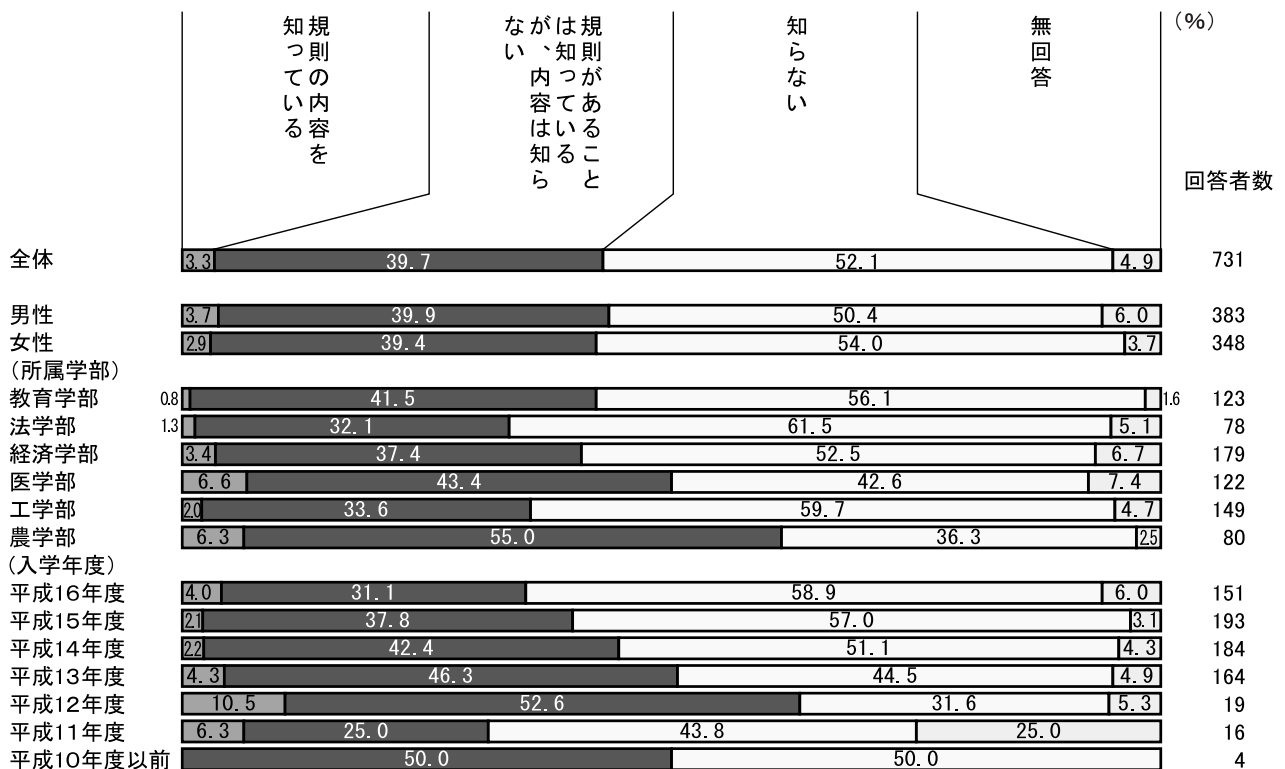
この傾向は男女別で見てもほぼ同様です。

学部別で見ると、防止規則の存在を知っている人の割合が高いのは、農学部、医学部、教育学部で、法学部と工学部では認知度が低くなっています。

入学年度別に見ると、学年が進むにつれて少しずつ認知度も上がってはいますが、「内容まで知っている」という人はそれほど変化ありません。

本学のハラスメント防止規則については、今後より一層多くの学生たちに周知していく必要があるようです。

〈図 95〉 問 56 あなたは、本学のハラスメント防止に関する規則を知っていますか。(全員回答のこと)



Ⅲ. 個人生活について

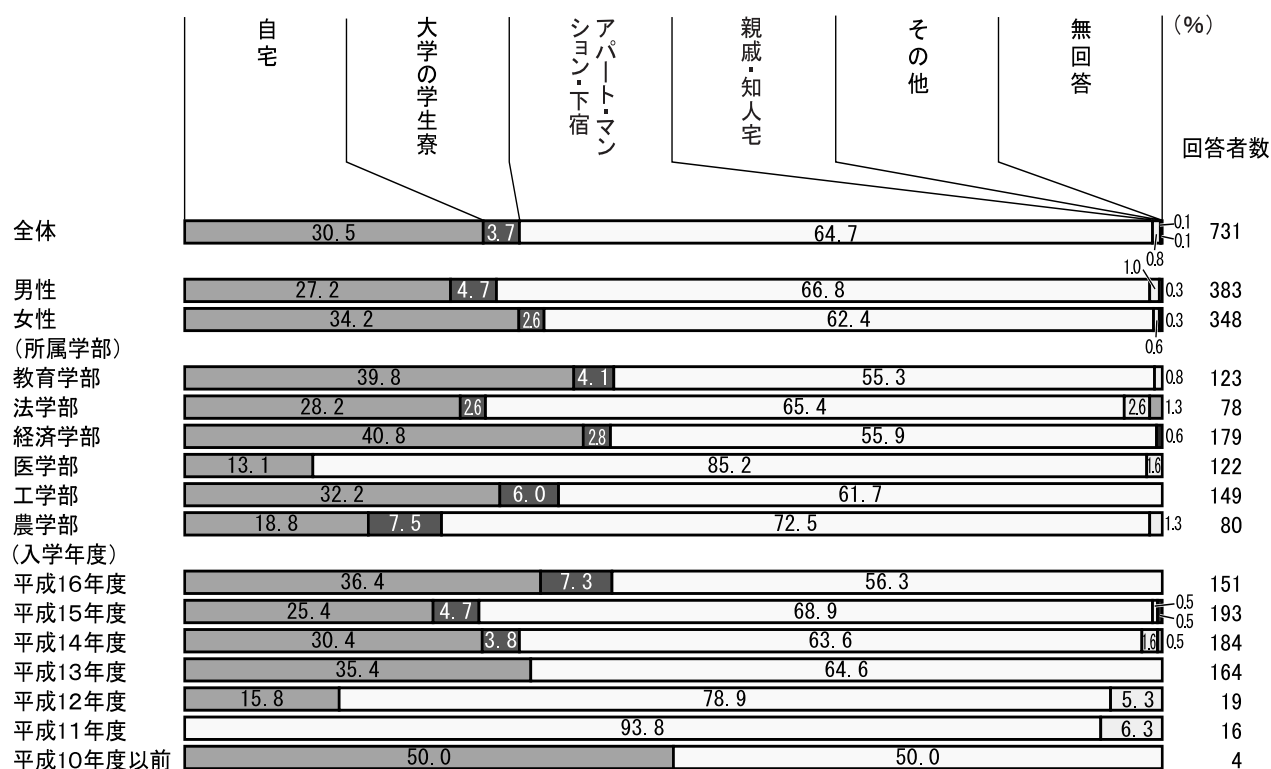
1. 住居

(1) 住居の形態

下宿が 64.7 %、自宅が 30.5 %、寮が 3.7 %です。

住居の形態では、「アパート・マンション・下宿」が全体の 64.7 % と最も多く、次いで「自宅」が 30.5 %、「学生寮」が 3.7 % でした。男女別では、「アパート・マンション・下宿」が男子で 66.8 %、女子で 62.4 % を占めており、男子の方が下宿率が高くなっていますが、その差は前回調査（第 8 回）よりも小さくなり、女子の下宿率が上がったことと男子の下宿率が下がったことが原因となっています。また、学生寮に入る率に大きな変動はありませんでした。学部別では、医学部の下宿率が 85.2 % で他の学部比べて 10 % 以上高い値でした。

〈図 96〉 問 57 あなたが現在住んでいるのは次のうちどれですか。

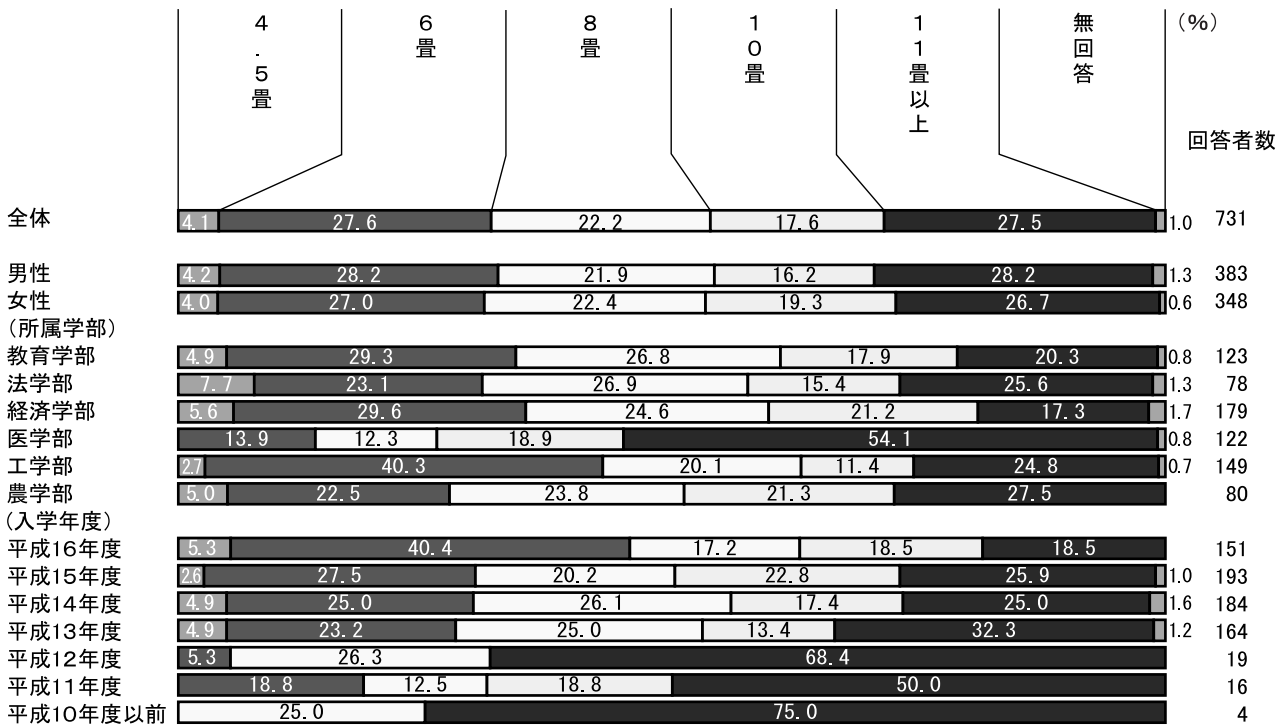


(2) 部屋の広さ

部屋の広さは、6畳と11畳以上がそれぞれ27.6%と27.5%です。

部屋の広さは、前回まで6畳から8畳のタイプが中心でしたが、今回は、8畳タイプが22.2%であり、むしろ11畳以上の広いタイプの方が27.5%あり、より広いタイプの部屋を使用するように変化していることがわかります。男女においても同じ傾向になっています。学部別では、医学部で11畳以上の広さを使用している率が54.1%と非常に高いことがわかりました。

〈図 97〉 問 58 あなたの使用している部屋の一人当たりの広さは何畳ですか。(自宅以外の方はバス・トイレ・キッチンなどを含めてください。学生寮は6畳とします。)



(3) 住居の感想

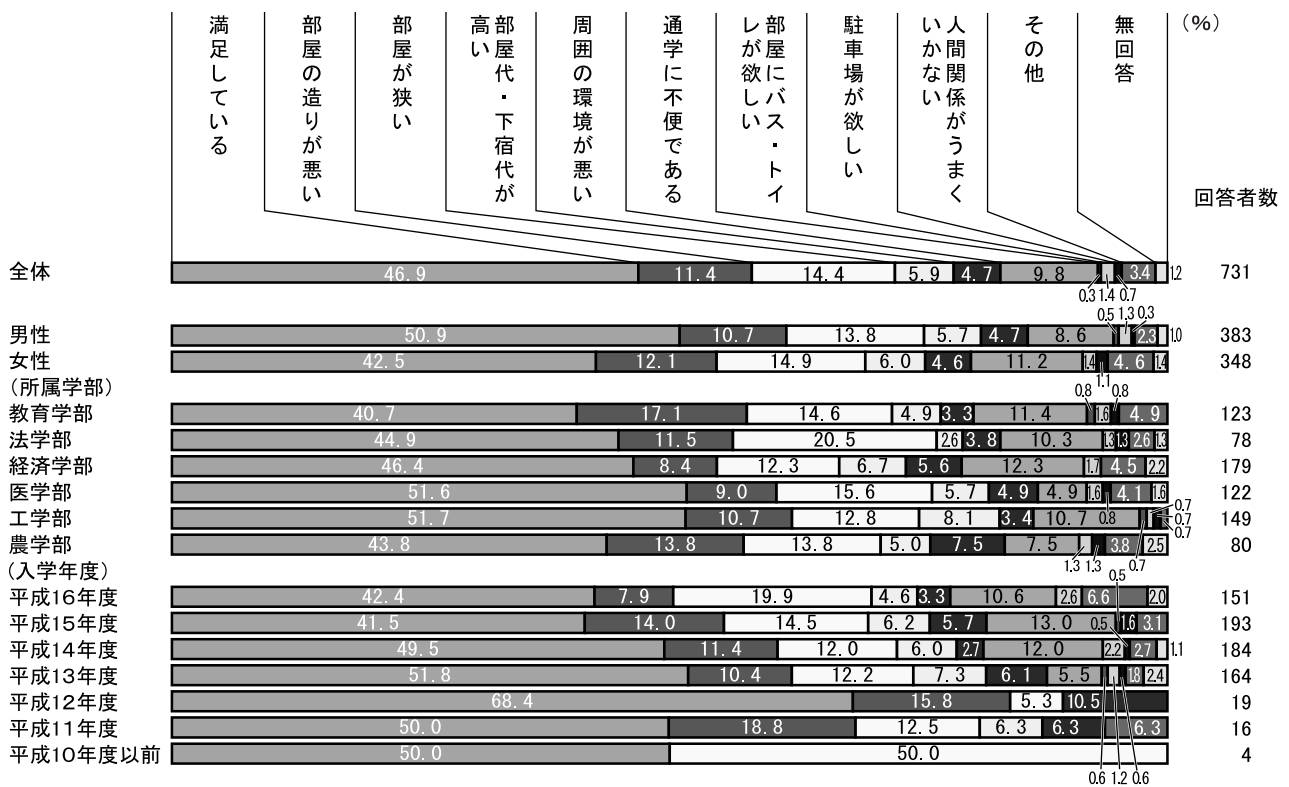
現在の住居に満足している学生は、全体で46.9%、男子で50.9%、女子で42.5%です。不満足の原因は、「部屋が狭いこと」14.4%、「部屋の造りが悪いこと」11.4%です。

全体では、46.9%の学生が「満足している」と答えています。男女別では、男子が50.9%、女子が42.5%、それぞれ「満足している」と答えており、満足度は、男子の方が高く、前回の報告とは逆の結果になりました。

不満な点は、男女とも「部屋が狭い」ことを1位にあげており、男子で13.8%、女子で14.9%となっています。さらに、不満理由の第2位として、男女とも「部屋の造りが悪い」をあげています。

学部別にみると、工学部と医学部の満足度が高く、それぞれ51.7%と51.6%でした。それに対して、教育学部は、40.7%と学部の中で最も低い満足度でした。

〈図 98〉 問 59 現在の住居についてどう思いますか。次のうちから一つ選んで答えてください。



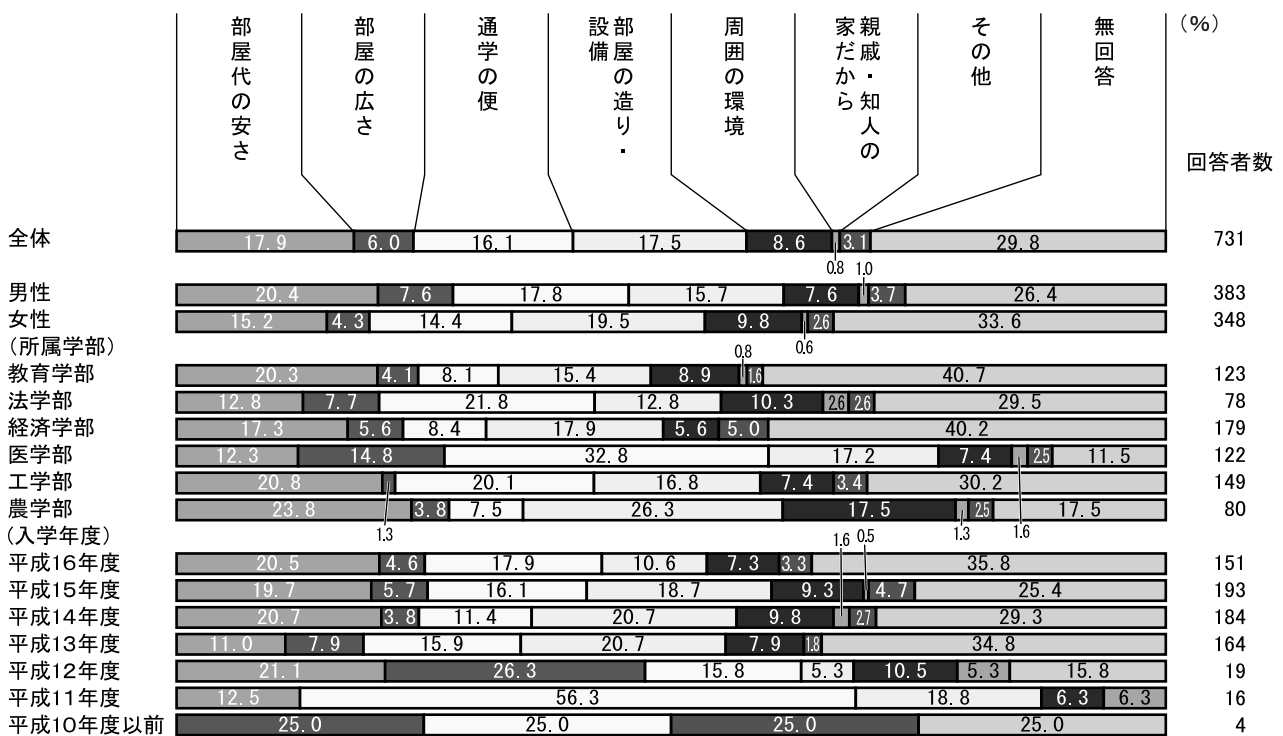
(4) 住居を選ぶ条件

住居を選ぶ条件は、「部屋代の安さ」、「部屋の造り・設備」、「通学の便」です。

自宅外の学生に住居を選ぶ条件を問うと、第1位は、全体では「部屋代の安さ」(17.9%)でした。以下、「部屋の造り・設備」(17.5%)、「通学の便」(16.1%)の順であり、前回の調査とほぼ類似した結果でした。第4位に「周囲の環境」(8.6%)をあげており、快適に生活できる環境を大事にしていることがわかります。

男女別では、上位3位に差がみられ、男子は、「部屋代の安さ」(20.4%)、「通学の便」(17.8%)、「部屋の造り・設備」(15.7%)、女子は、「部屋の造り・設備」(19.5%)、「部屋代の安さ」(15.2%)、「通学の便」(14.4%)であり、男子は安さ、女子は住み心地を重視しているようです。

〈図 99〉 問 60 住居を選ぶ際に最も考慮した条件はどれですか。次のうちから一つ選んで教えてください。



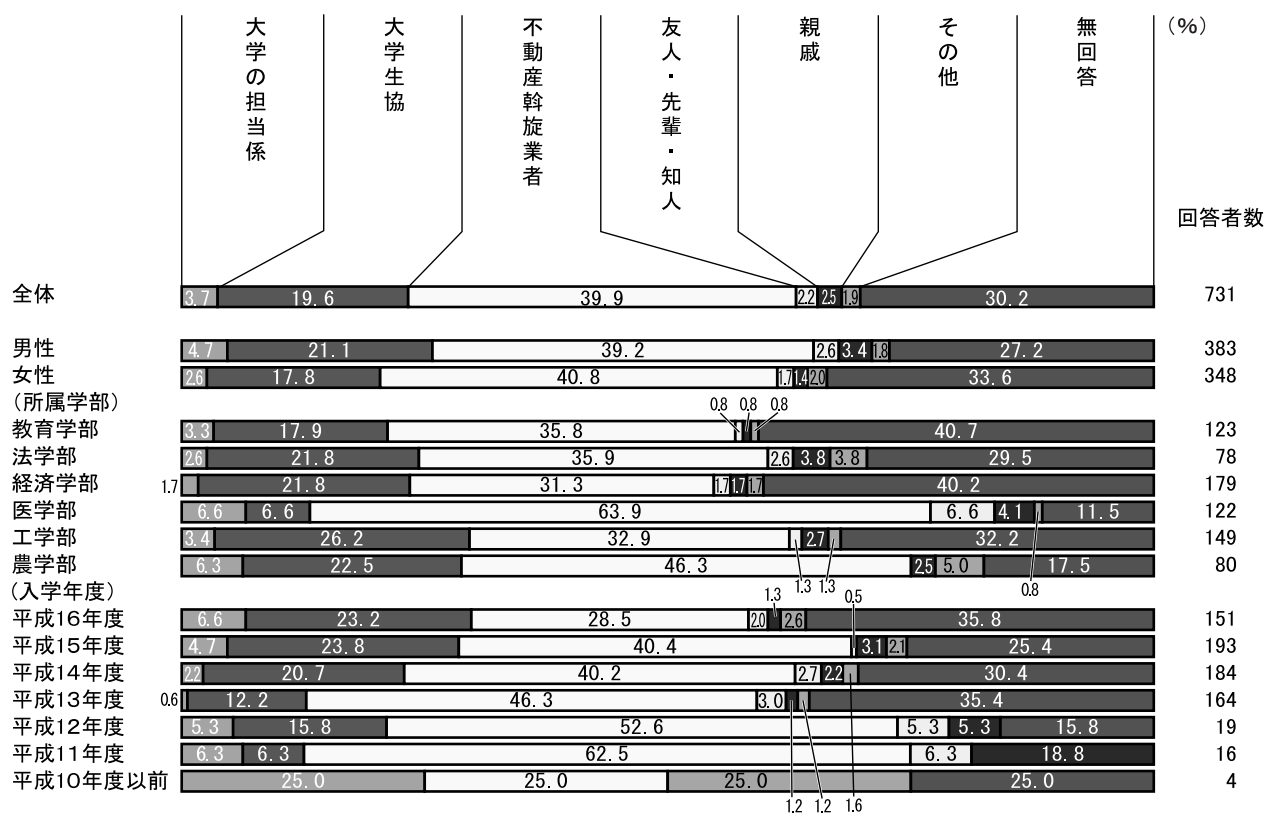
(5) 住居の斡旋者

住居の斡旋は、「不動産斡旋業者」(39.9%)と「大学生協」(19.6%)です。

住居の斡旋は、全体では、「不動産斡旋業者」(39.9%)、「大学生協」(19.6%)、「大学の担当係」(3.7%)の順でした。

男女別でも同様の順に斡旋を受けていました。ただし、無回答が3割前後あり、単純に前回の結果と比較はできませんが、回答者の回答比率はおおむね従来と変わっていません。

〈図 100〉 問 61 現在の住居はだれの斡旋によるものですか。



(6) 入寮の検討

学生寮への入寮を検討したのは、19.9%で、実際に入寮したのは、5.5%です。

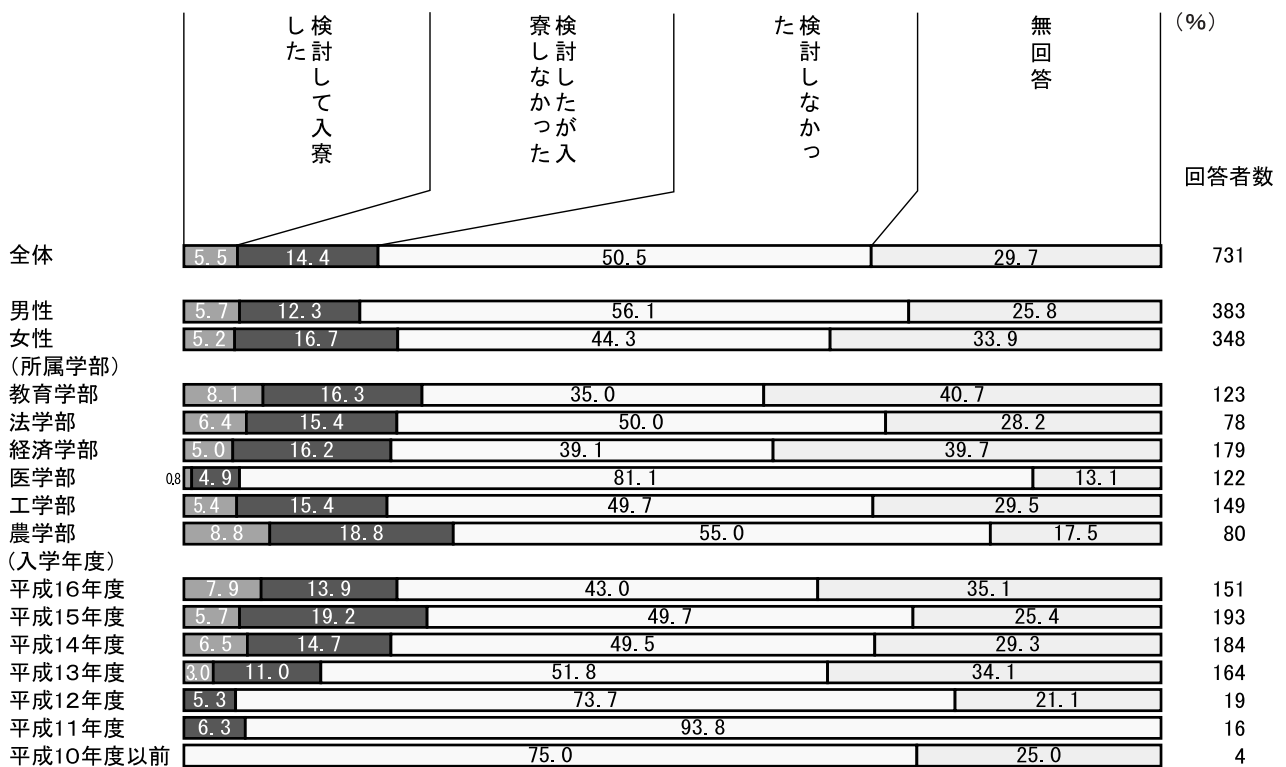
入学時に学生寮への入寮を検討したのは、全体で19.9%ありましたが、実際に入寮したのは、5.5%です。また、まったく検討しなかったのは、50.5%です。

これは、前回と比較して、入寮を検討する率と実際の入寮率が低下し、逆に検討しなかった率は、高くなっています。

男女別では、女子の方が検討したが、入寮しなかった率が高く、検討しなかった率は、男子の方が高いものでした。

学部別では、医学部は、他の学部比べて寮への入寮率は低い結果です。今回の調査では、「無回答」が29.7%を占め、単純に過去の調査と比較できませんが、検討する率は高いものの、入寮した割合は、前回の調査よりも低いものでした。

〈図 101〉 問 62 入学時、本学の学生寮に入ることを検討しましたか。



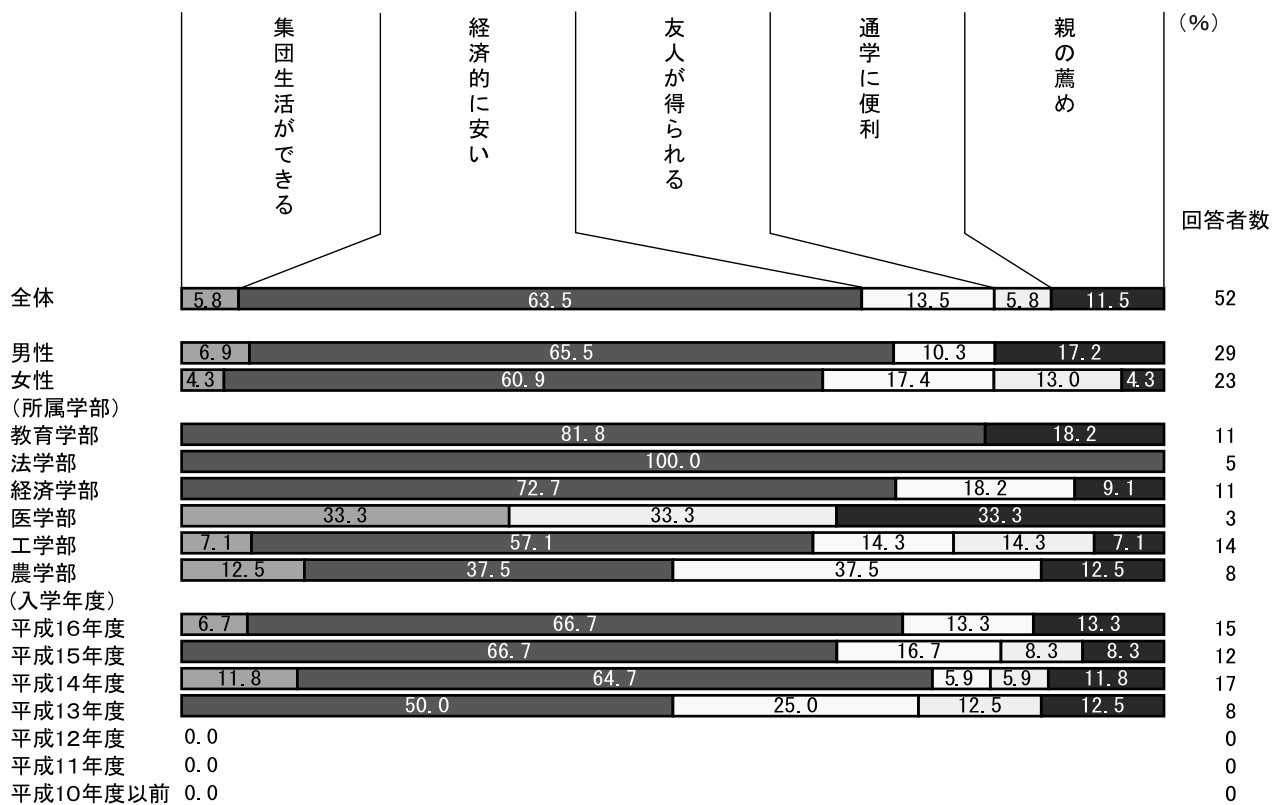
(7) 学生寮を選んだ理由

入寮の理由は、「経済的に安い」が全体の 63.5 %で圧倒的です。

入寮する理由の第1位は、前回の調査と同じく「経済的に安い」が全体で 63.5 %でした。次いで、「友人が得られる」(13.5 %)、「親の勧め」(11.5 %)です。

男女別でも第1位は、「経済的に安い」でしたが、第2位には、男子が「親の勧め」(17.2 %)であり、女子が「友人が得られる」(17.4 %)であり、第3位にはそれぞれ2位と反対の結果となり、2位と3位の結果は、前回の調査結果と逆でした。

〈図 102〉 問 63 学生寮を選んだのは、次のどの理由からでしょうか。一つ選んで教えてください。
(入寮した人のみ回答のこと。)



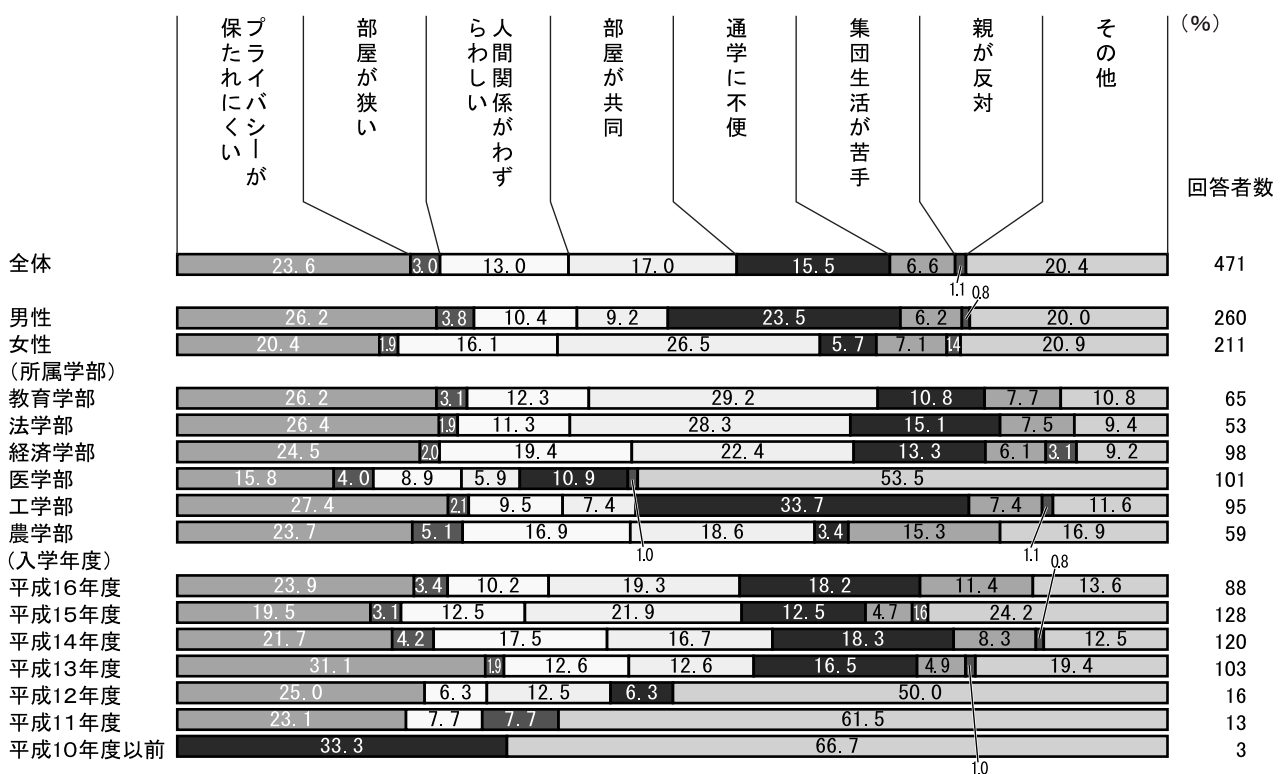
(8) 学生寮を選ばなかった理由

入寮しない理由は、「プライバシーが保たれにくい」、「部屋が共同」、「通学に不便」でした。

入寮しない理由については、全体では、「プライバシーが保たれにくい」(23.6%)、「部屋が共同」(17.0%)、「通学に不便」(15.5%)が上位3位を占めています。

男女別では、男子が「プライバシーが保たれにくい」(26.2%)、女子が「部屋が共同」(26.5%)をそれぞれ1位にあげています。女子の場合は、部屋の枠組みが共同タイプであることを特に嫌っています。3位には、男女とも「人間関係がわずらわしい」をあげており、その割合は、女子の方が高くなっています(16.1%)。

〈図 103〉 問 64 学生寮を選ばなかったのは、次のどの理由からでしょうか。一つ選んで教えてください。(現在入寮していない人のみ回答のこと。)



2. 健康

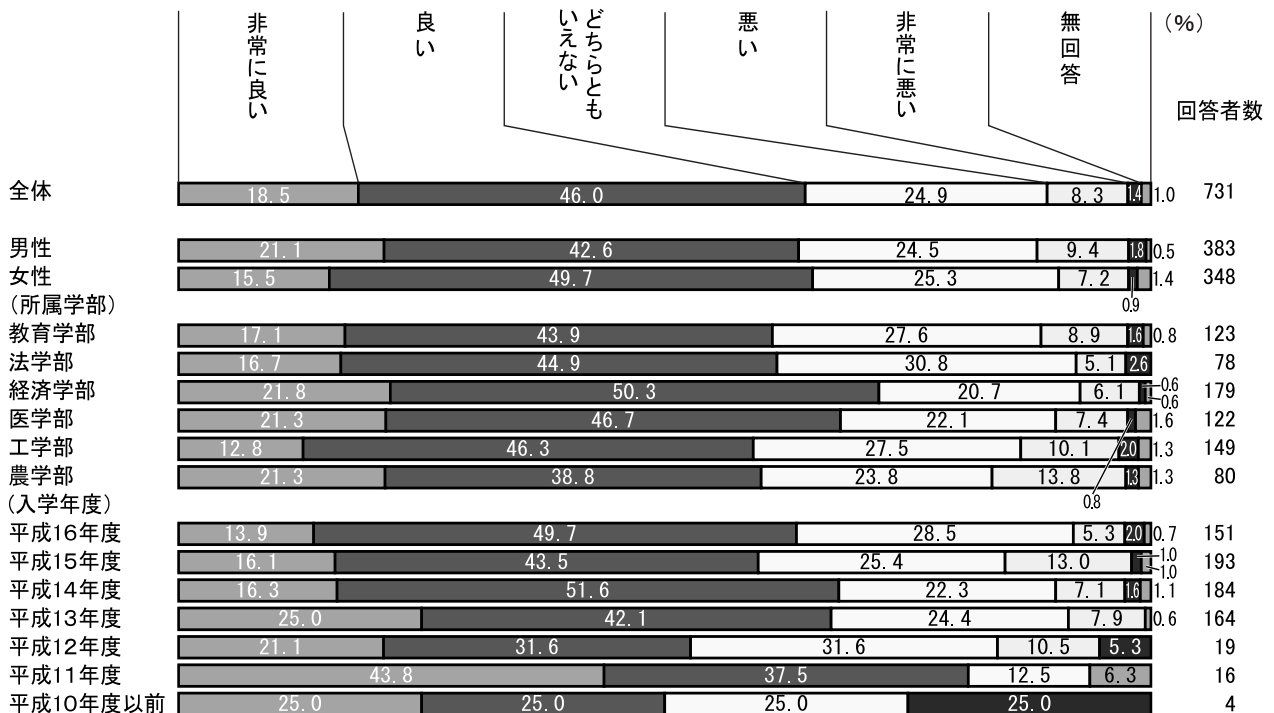
(1) 現在の健康状態

全体の9割の学生が、自分の健康状態は「良い」あるいは「普通」と思っています。

現在の健康状態について尋ねました。「健康状態が非常に良い」と答えた学生は全体の18.5%、「健康状態が良い」と答えた学生は46.0%、「どちらともいえない」と答えた学生は24.9%で、これらを併せると89.4%となります。それに対して「健康状態が悪い」と答えた学生は8.3%、「非常に悪い」と答えた学生は1.4%でした。これらの結果から、全体の9割の学生が自分の健康状態は「良い」あるいは「普通」と考えており、残りの1割の学生は自分の健康状態を「悪い」と考えていることが分かります。これは前回の調査結果とほぼ同様です。

この割合は、男女別で見ても学部別で見てもそれほど大きな違いは見られませんが、入学年度別に見ると、平成11年度入学の学生（6年目）では「非常に良い」が43.8%、「良い」が37.5%と突出して高く、「悪い」「非常に悪い」は共に0%となっています。また、平成10年度以前入学（7年目以降）の学生では逆に「非常に悪い」と答えた学生が25.0%と極端に高くなっています。この値をどう解釈するかは難しいのですが、平成16年度～13年度入学の学生（1～4年生）における回答者数はそれぞれ150～200名とほぼ均等なのに対して、平成11年度入学（6年生）の回答者数は16名、平成10年度以前入学（7年生）では4名と、極端に少なくなっています。したがって、平成11年度以前に入学した学生のデータは、そもそも回答者数が少ないことにより結果に偏りが生じた可能性も考えられます。

〈図 104〉 問 65 現在の健康状態はいかがですか。



(2) 保健管理センターの利用について

5割以上の学生が、健康診断以外でも保健管理センターを利用しています。

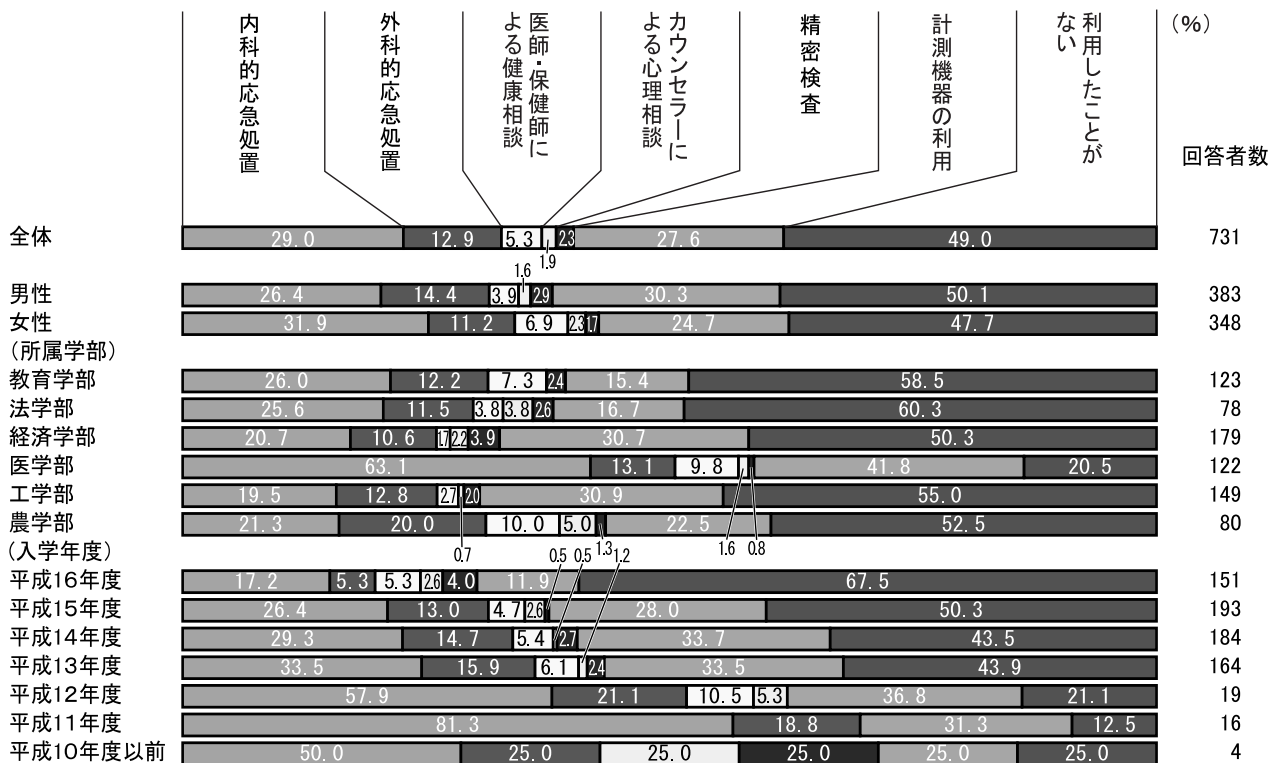
健康診断以外でも保健管理センターを「利用したことがある」と答えた学生は51.0%でした。これは前回調査(40.5%)と比較して約1割の増加です。「利用したことがある」と答えた学生に対しては、2つまでの複数回答を求めていますので(例えば「内科的応急処置」と「計測機器の利用」の両方を選んだ学生もいる)、図中の各項目の合計は100%にはなりません。

さて、保健管理センターの利用内容をみると、「内科的応急処置」が29.0%と最も多く、ついで「計測機器の利用」が27.6%、「外科的応急処置」が12.9%、「医師・保健師による健康相談」が5.3%、「カウンセラーによる心理相談」が1.9%と続いています。前回調査と比較すると、「内科的応急処置」の増加(前回18.4%、今回29.0%)が目立ちますが、それ以外は前回と同様の結果です。

学部別に見ると、医学部では「内科的応急処置」の利用が63.1%、「計測機器の利用」の利用が41.8%と多く、また農学部では「外科的応急処置」の利用が20.0%と比較的多いのが特徴的です。

入学年度別に見ると、入学後、年数を経るごとに保健管理センターの利用が増加していることがわかります。

〈図 105〉 問 66 あなたは定期健康診断以外に保健管理センターを利用したことがありますか。次のうちから二つまで選んで答えてください。



(3) 身体の具合が悪くなったときの対処方法

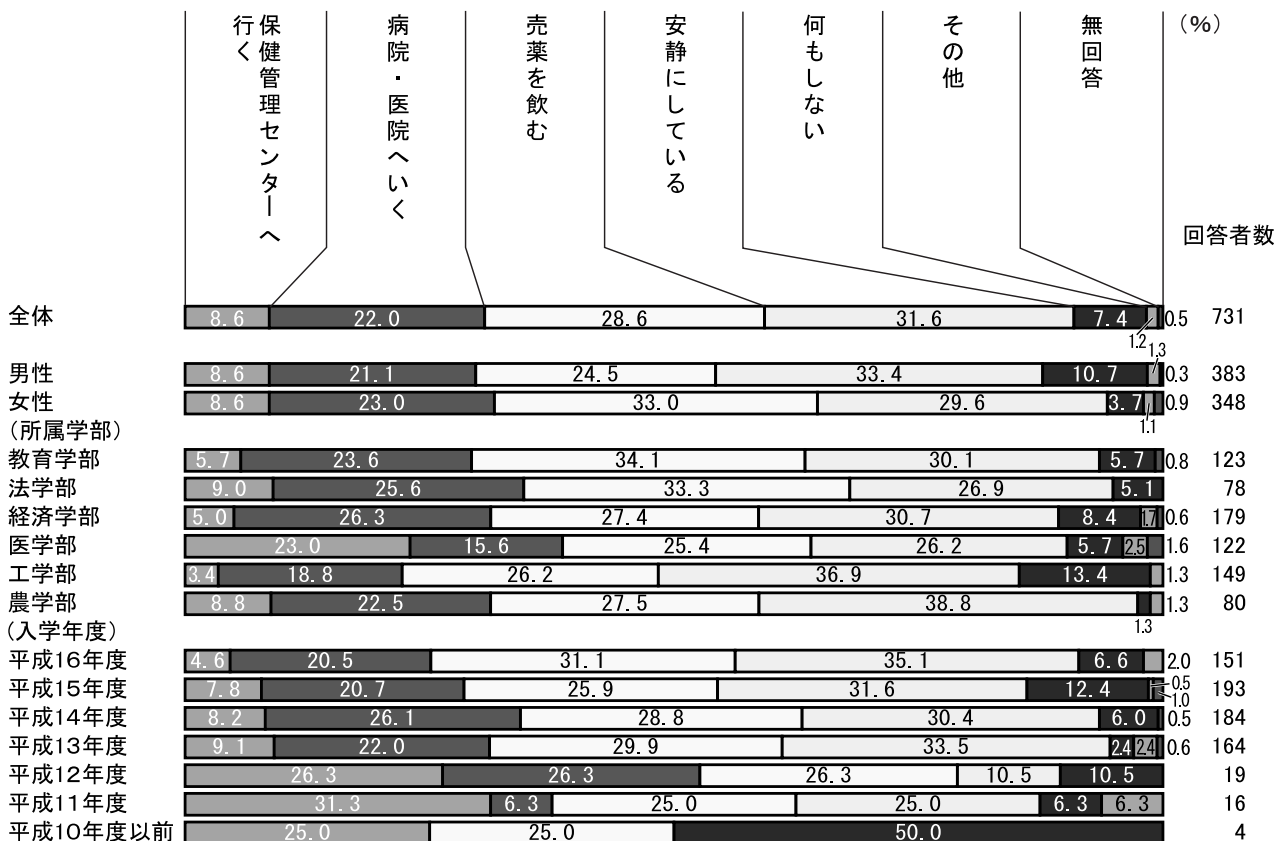
身体の具合が悪くなったとき、学生は「安静にする」「売薬を飲む」「病院に行く」といった方法で対処しています。

身体の具合が悪くなったときの対処方法について尋ねました。その結果、「安静にしている」が31.6%で最も多く、次に「売薬を飲む」が28.6%、「病院・医院へ行く」が22.0%と続いています。保健管理センターを利用するのは8.6%、特に「何もしない」と答えた人も7.4%いました。

学部別に見ると、医学部では保健管理センターの利用率が高く(23.0%)、工学部では低く(3.4%)なっています。

入学年度別では、平成12年度以前の入学学生の保健管理センター利用率が高くなっていますが、これも先述したように回答者数の少なさによる偏りの可能性があります。

〈図106〉 問67 身体の具合が悪くなったとき、通常どのように対処していますか。次のうちから一つ選んで教えてください。



(4) 飲酒について

飲酒については、月に数回もしくは年に数回といった頻度で嗜む程度の学生が、全体の7割以上を占めています。

学生の飲酒状況について尋ねました。全体で見ると「月に数回飲む」と答えた学生が47.7%と最も多く、次いで「年に数回飲む」という学生が26.4%でした。7割以上の学生は付き合い程度にお酒を飲んでいる、といえそうです。

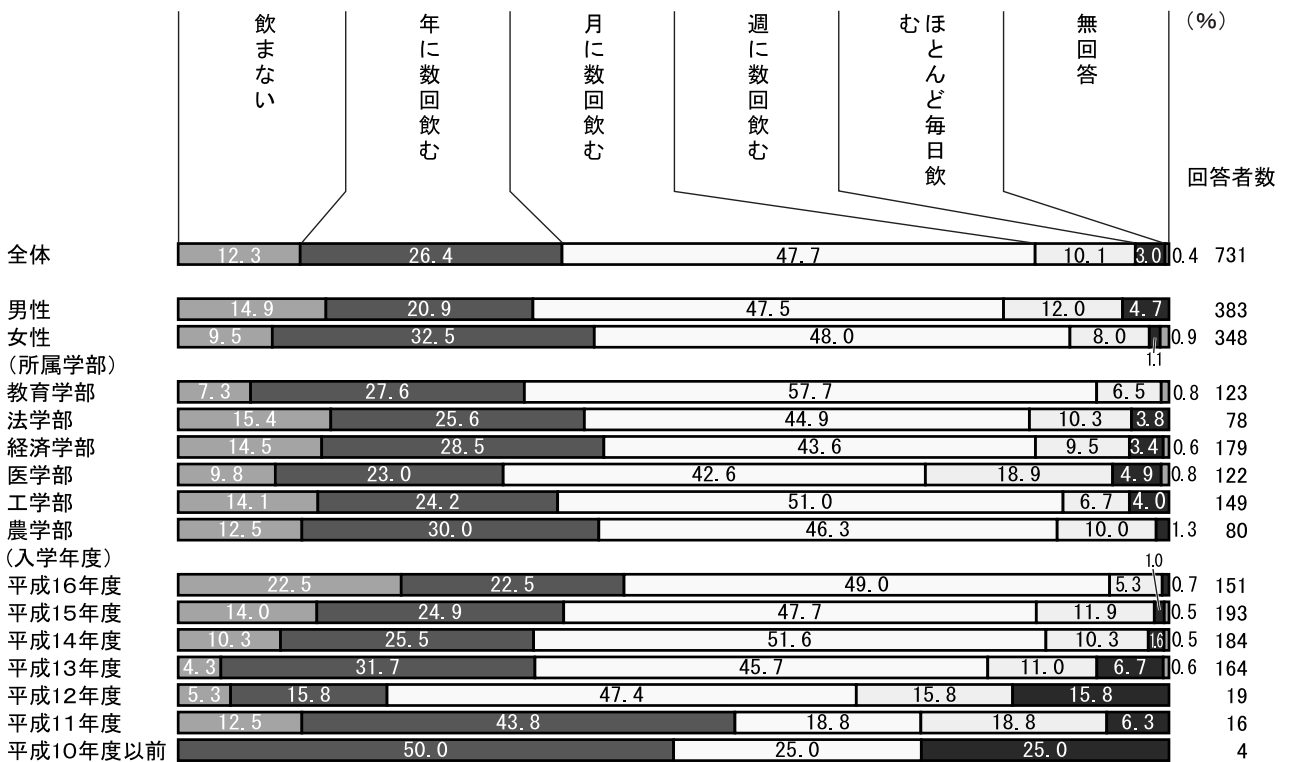
また、「週に数回飲む」学生は10.1%、「ほとんど毎日飲む」学生も3.0%おり、頻繁に飲酒している学生もいます。なお、これらの結果は前回の調査とほぼ同じ傾向でした。

男女別に見ると、「飲まない」と答えた学生は男性14.9%、女性9.5%と、男性の方がお酒を飲まない学生が多くなっています。

学部別に見ると、医学部で「週に数回飲む」と答えた学生が18.9%と、他学部よりも頻繁に飲酒している学生が多くなっています。

なお、入学年度別に見ると、入学後、年数が経過するに連れて飲酒の頻度も増加している傾向がうかがえます。

〈図 107〉 問 68 お酒を飲みますか。



(5) 喫煙について

タバコを吸う学生は年々減り、逆に吸わない学生はついに全体の8割を越えました。

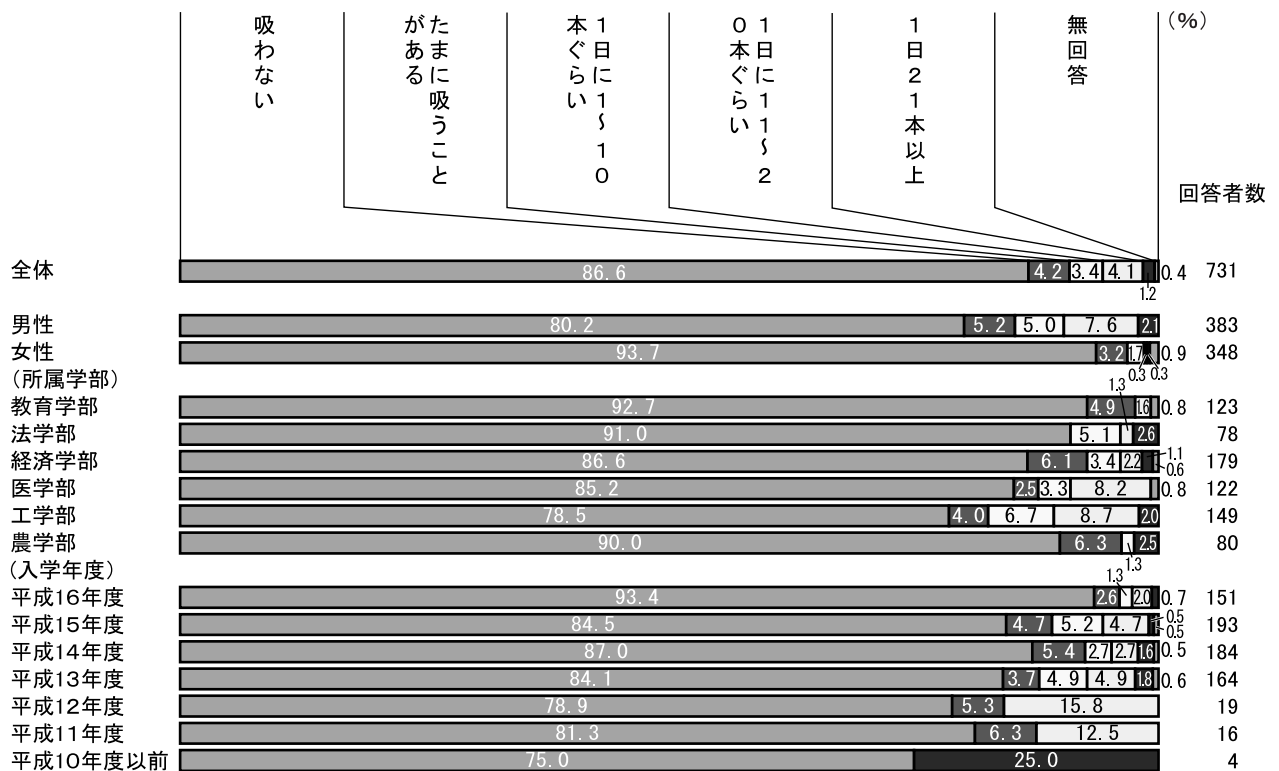
「たまに吸うことがある」から「1日に21本以上」という人まで含めた喫煙者の割合の推移は、第1回調査（昭和60年度）30.5%、第2回（平成元年度）32.3%、第3回（平成4年度）27.6%、第4回（平成6年度）29.6%、第5回（平成8年度）23.5%、第6回（平成10年度）22.8%、第7回（平成12年度）21.5%、第8回（平成14年度）21.2%、そして今回12.9%と年々減少傾向にあります。テレビや新聞、健康教育の授業などを通して、喫煙は身体に悪いという知識が定着してきているようです。

男女別で見ても、これまで3割を越えていた男子学生の喫煙率が、今回は2割を切りました（19.9%）。

ただ、学部別で見ると工学部学生の喫煙率がまだ少し高いようです（21.4%）。

今後も更なる健康教育や喫煙知識の普及が望まれるところです。

〈図108〉 問69 たばこを吸いますか。



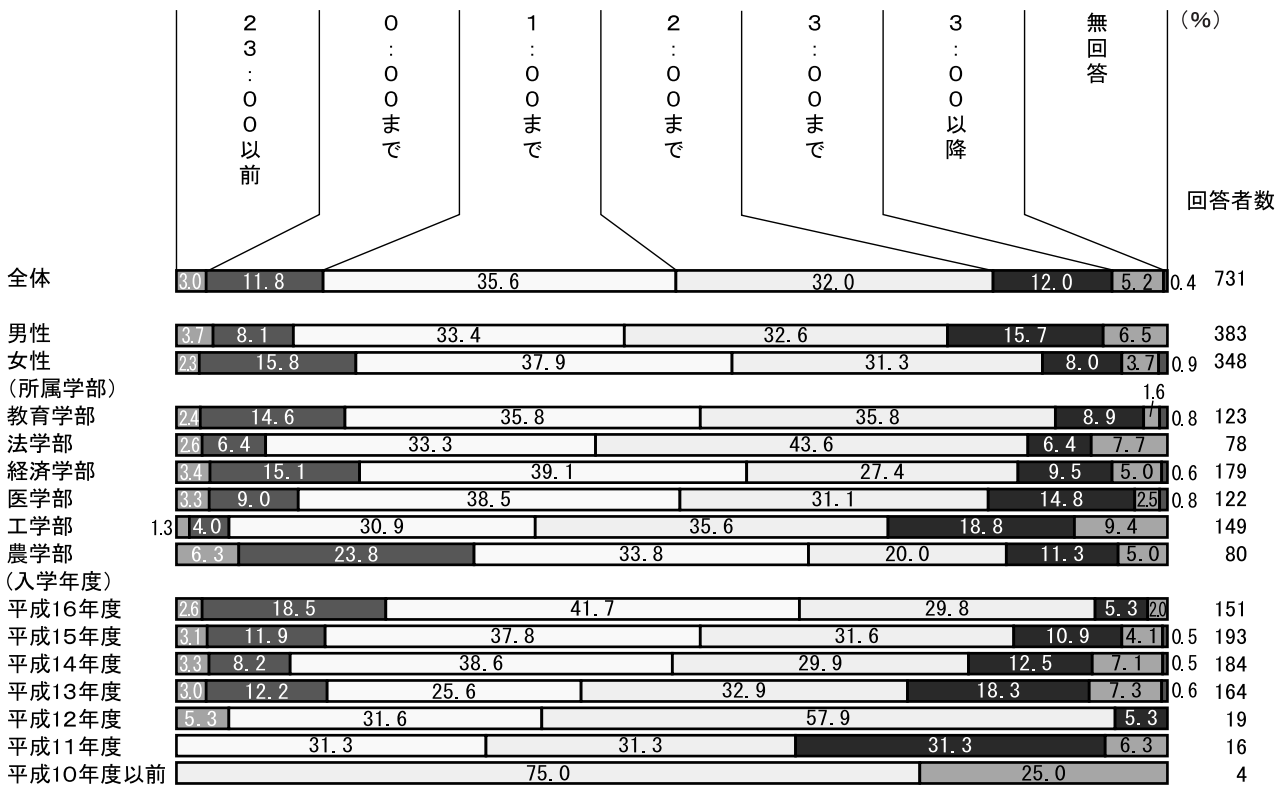
(6) 平日の就寝時刻について

学生の生活時間帯の夜型化は依然として続いています。

平日の就寝時刻について、午前零時までに就寝する学生は14.8%と、前回調査(17.5%)からさらに減少しました。また、深夜(午前1時以降)まで起きている学生は49.2%とほぼ半数近くに達しています。

学生の生活時間帯の夜型化は依然として続いており、男女別に見れば男子学生の方が、学部別に見れば工学部が、また入学年度で見れば学年が上がるにつれて、その傾向はより顕著になっているといえるでしょう。

〈図 109〉 問 70 平日の就寝時刻は何時ですか。



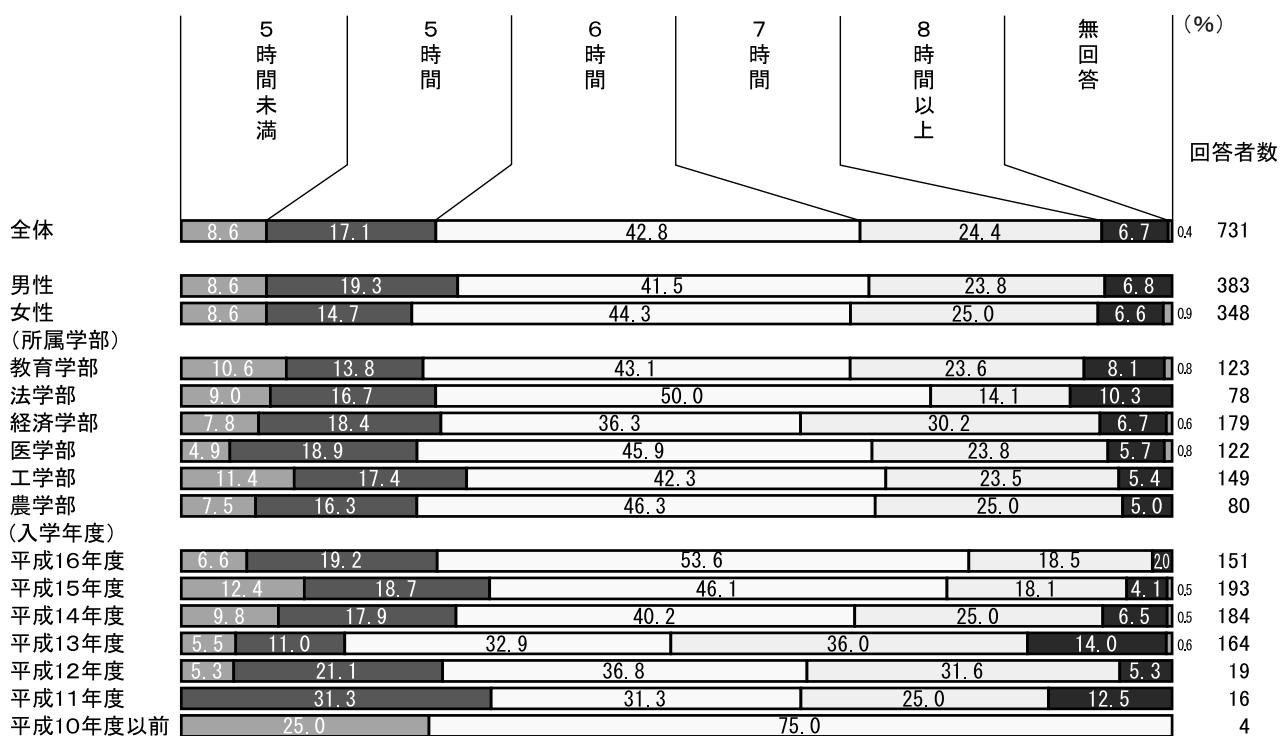
(7) 1日の睡眠時間について

73.9%の学生が「6時間以上」の睡眠時間をとっていますが、「5時間以下」の学生も25.7%います。

1日の睡眠時間について、6時間以上の睡眠をとっている学生は73.9%で、「5時間」「5時間未満」と答えた学生は併せて25.7%となっています。これは男女別、学部別で見てもあまり変わりはありません。

ただ入学年度別に見ると、平成13年度入学の学生（4年生）は8割以上の学生が6時間以上の睡眠をとっています。他学年に比べて4年生の睡眠時間が最も長くなっているのは前回調査と同様です。前項の就寝時刻は学年が上がるにつれて遅くなっているにも関わらず、睡眠時間は4年生が最も長くなっているということは、4年生は朝遅くまで寝ている人が多い、ということが推測されます。これは、4年生になると授業数の減少や就職活動などの影響で、それまでの学年とは生活パターンが変化していることを示しているのかもしれませんが。

〈図110〉 問71 あなたの1日の睡眠時間はおよそ何時間ですか。



(8) 1日の食事の回数について

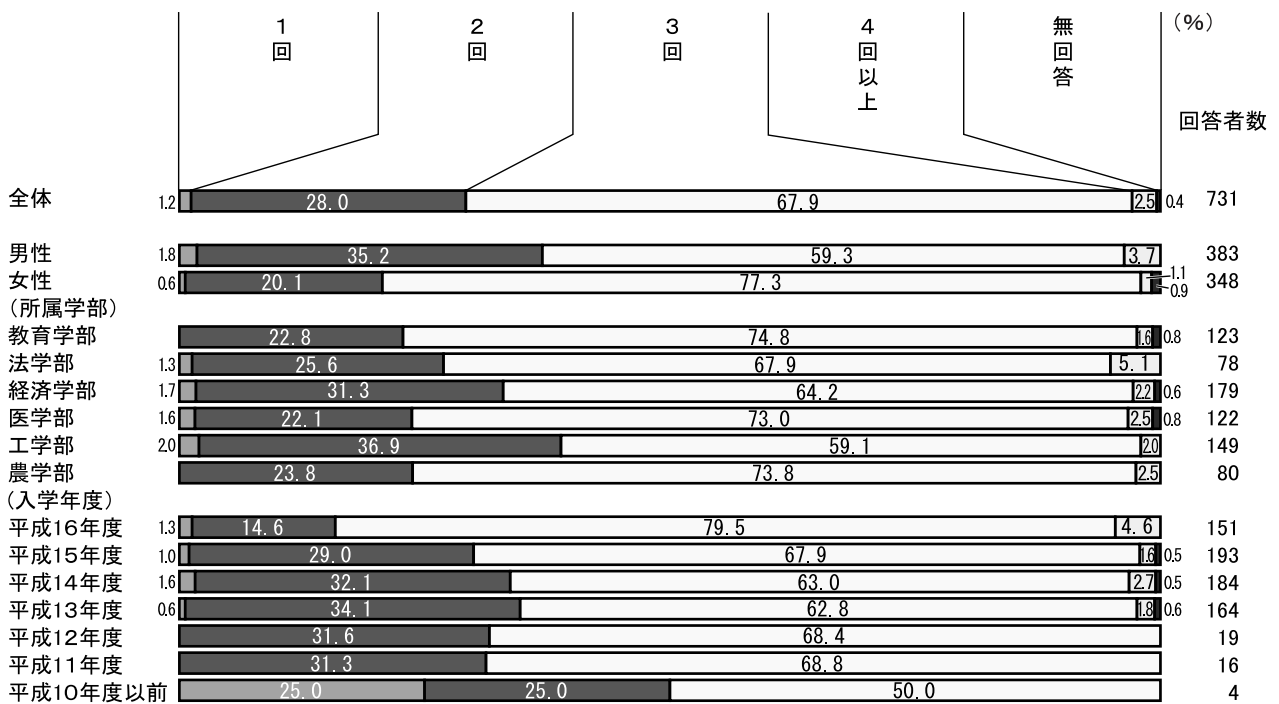
学生の食生活（食事回数）は、男子学生を中心に若干改善しています。

1日の食事の回数について、「3回」と答えた学生が67.9%と前回調査（62.4%）よりも少し増え、「2回」と答えた学生は28.0%と前回調査（31.9%）よりも若干減少しています。

男女別に見ると、女子学生は8割近くが1日3回の食事をとっているのは前回調査と同様ですが、男子学生は1日3回の食事をとる学生が59.3%と前回調査（49.9%）に比べて増加しています。男子学生の食生活は前回よりは少し改善したと言えるかもしれません。

入学年度別に見ても、前回調査では学年が上がるにつれて食事回数も1日3食から2食へと減っていく傾向が顕著に現れていましたが、今回は2年生以降の食事回数の減少に一定の歯止めがかかっている様子がうかがえます。

〈図 111〉 問 72 あなたの1日の食事は何回ですか。



3. 友人

(1) 学内の友人関係

9割近くの学生が、学内に「親密につき合える友人がいる」と答えています。

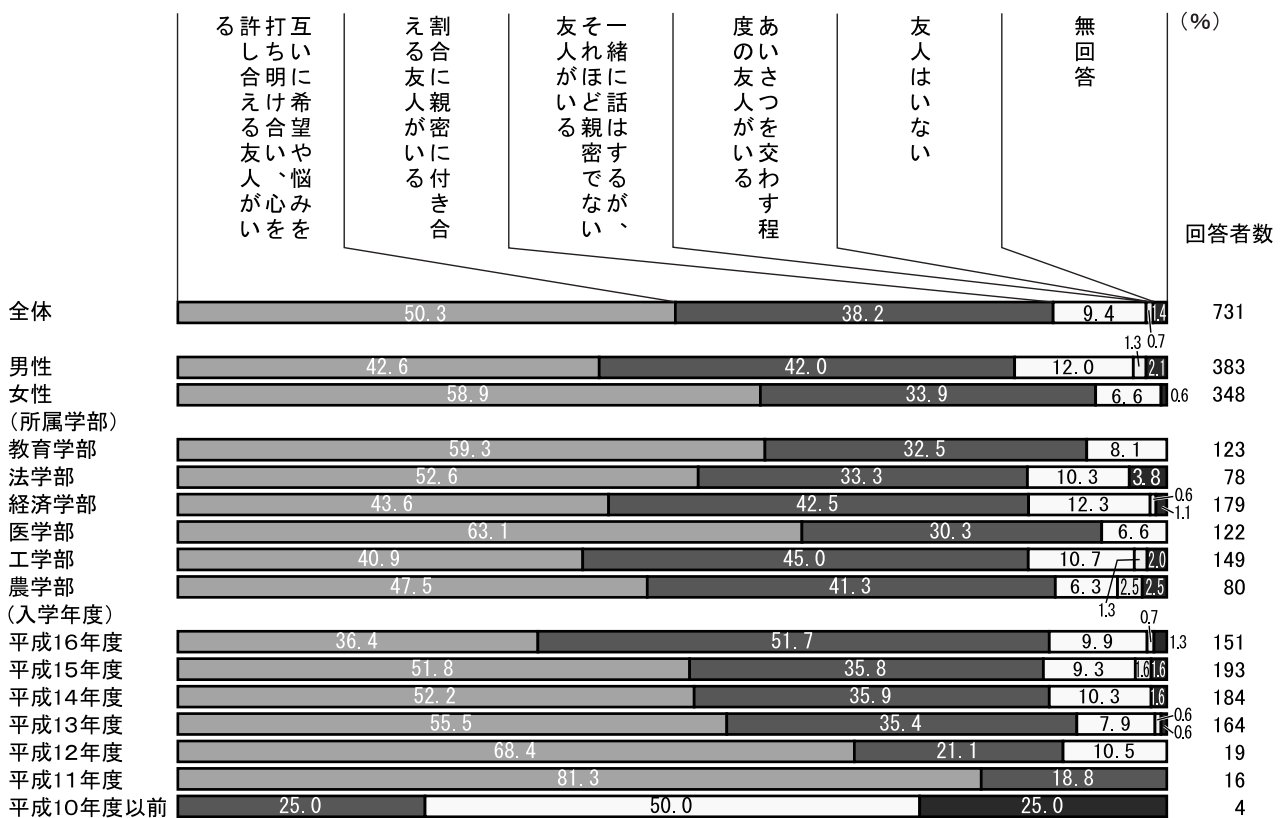
学内における友人関係について、「心を許しあえる友人がいる」と答えた学生が50.3%、「割合に親密につき合える友人がいる」と答えた学生が38.2%で、これらを併せると88.5%となりました。これは前回調査とほぼ同様の結果です。現代の学生はとかく「人づきあいが下手になった」と言われがちですが、この結果から見る限り、少なくとも学生の主観的には学内の友人関係は概ね良好であると言えます。

男女別に見ますと、女子学生の方が「心を許しあえる友人がいる」と答える割合が高くなっており、これも前回と同様です。

学部別に見ますと、医学部と教育学部において「心を許しあえる友人がいる」と答えた学生の割合が高いようです。

入学年度別で見ますと、学年が上がるにつれて「心を許しあえる友人がいる」の割合が増加していますが、平成10年度以前に入学した学生ではその割合が低くなっているのが気になります。

〈図 112〉 問 73 あなたは本学内にどの程度付き合える友人がいますか。同性異性を問いません。



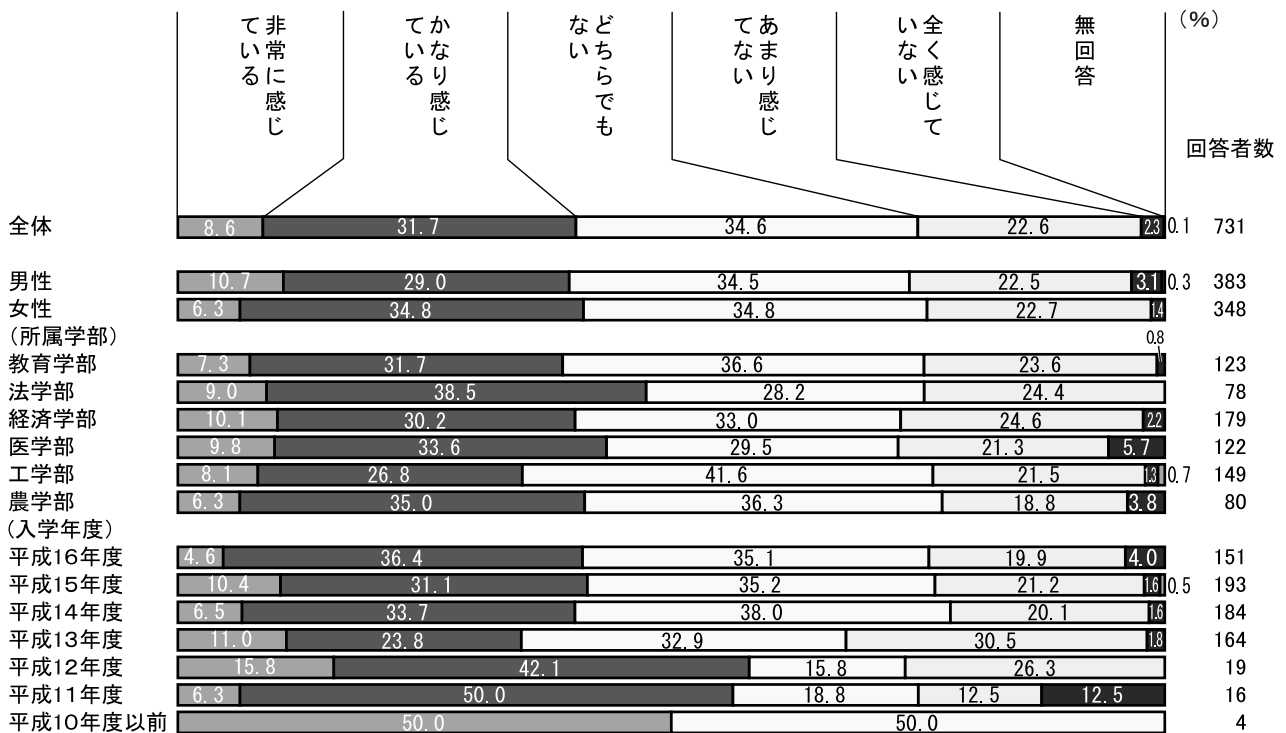
(2) 精神的ストレス

4割の学生が日常生活で何らかの精神的なストレスを感じています。

学生が日常生活でどの程度精神的ストレスを感じているかを調べました。その結果、「どちらでもない」が34.6%で最も多く、次いで「かなり感じている」が31.7%、「あまり感じていない」が22.6%、「非常に感じている」が8.6%でした。このうち、「非常に感じている」と「かなり感じている」を併せると40.3%となり、4割の学生は日常生活において何らかの精神的ストレスを感じていることが分かります。

男女別ではそれほど顕著な差は見られず、学部別では法学部、医学部、農学部でストレスを感じている人割合が若干高くなっている程度でした。入学年度別に見ますと、平成12年度以前に入学した学生（5年生以上）でストレスを感じている人の割合が5割を越えているのが気が掛かります。

〈図113〉 問74 あなたは日常生活でどの程度精神的なストレスを感じていますか。



(3) ストレスの原因

学生のストレスの3大原因は、「学業」と「進路・就職」そして「友人関係」です。
特に男子学生においては「学業」の問題が大きな悩みの種となっているようです。

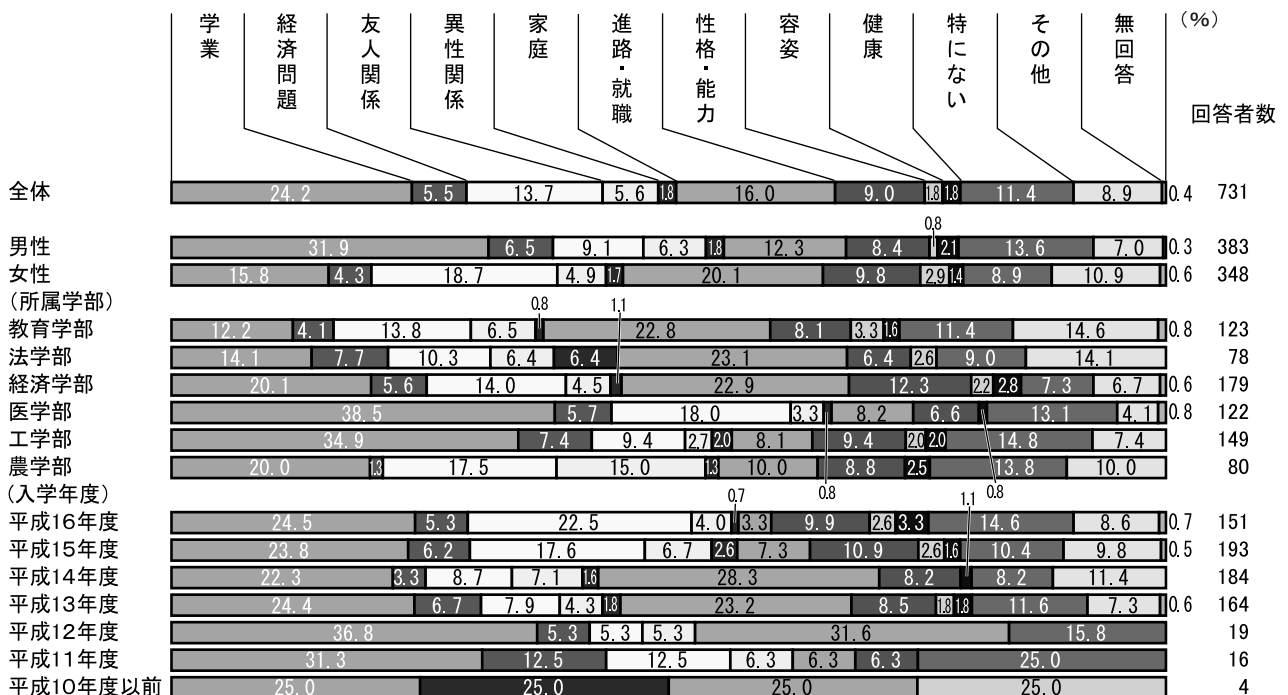
さらに、ストレスの原因について調べました。全体で見ると最も多かったのが「学業」のストレスで24.2%、次いで「進路・就職」が16.0%、「友人関係」が13.7%、さらに「性格・能力」の9.0%、「異性関係」の5.6%と続きます。依然として現代学生の3大ストレスは「学業」「進路・就職」「友人関係」であると言えるでしょう。

男女別に見ると、男子学生の上位3位は「学業」が31.9%とダントツのトップで、以下「進路・就職」12.3%、「友人関係」9.1%の順でしたが、女子学生では「進路・就職」20.1%、「友人関係」18.7%、「学業」15.8%となっていました。

学部別に見ると、教育学部では「進路・就職」「友人関係」「学業」の順、法学部と経済学部では「進路・就職」「学業」「友人関係」の順でしたが、医学部と工学部では「学業」がダントツに高く、「進路・就職」は他学部比べて低いという結果でした。学部の特徴がストレスの原因として顕著に現れた例といえます。ちなみに農学部においては、「学業」「友人関係」の次に3位「異性関係」が入っているのが特徴的です。

さらに入学年度別に見ると、入学後1～2年の間は「友人関係」のストレスが多いのですが、3年目から急激に「進路・就職」のストレスが増加していることがわかります。これは学生生活サイクルの変化を如実に反映した結果であるといえるでしょう。

〈図 114〉 問 75 あなたにストレスをもたらしている主なものはどんなことですか。次のうちから一つ選んで教えてください。



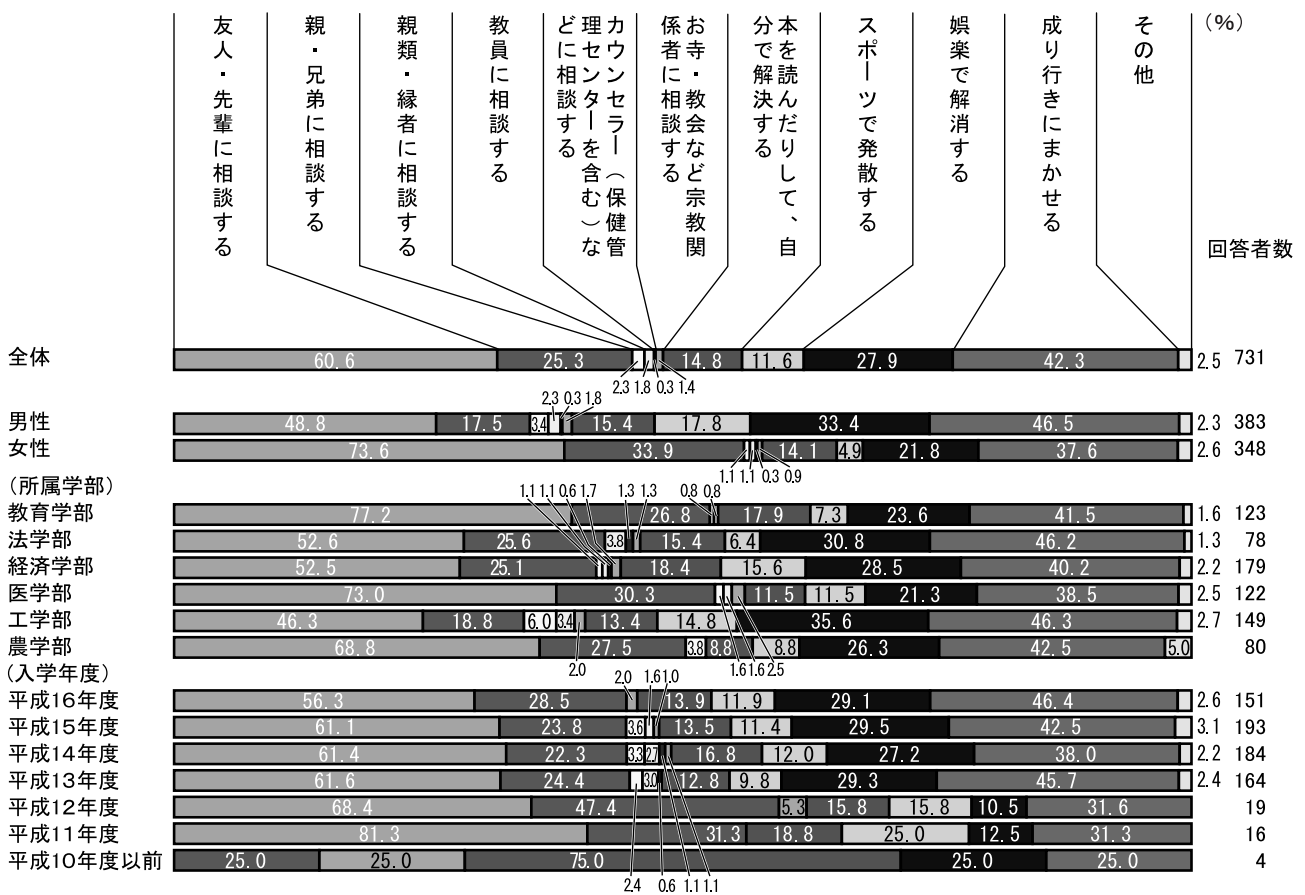
(4) 悩みの対処方法

問題に直面した時、学生は「友人・先輩に相談する」「成り行きにまかせる」「娯楽で解消する」といった方法で対処しています。

問題に直面したときの対処方法を2つまで選択させました(複数回答のため、各項目の合計は100%になりません)。その結果、対処方法として「友人・先輩に相談する」を選んだ学生が60.6%と最も多く、次いで「成り行きにまかせる」の42.3%、「娯楽で解消する」の27.9%、「親・兄弟に相談する」の25.3%、「本を読んだりして自分で解決する」の14.8%と続いています。

男女別で見ると、男子学生では「娯楽で解消する」「スポーツで発散する」など悩みとは関係ない別のことで気を紛らわす傾向が強いのに対して、女子学生では「友人・先輩」「親・兄弟」など悩みを直接誰かに相談して解決する傾向が強いことが窺えました。

〈図 115〉 問 76 あなたは問題に直面したとき、どのように対処しますか。次のうちから二つまで選んで教えてください。



4. アルバイト

(1) 過去1年間のアルバイト経験

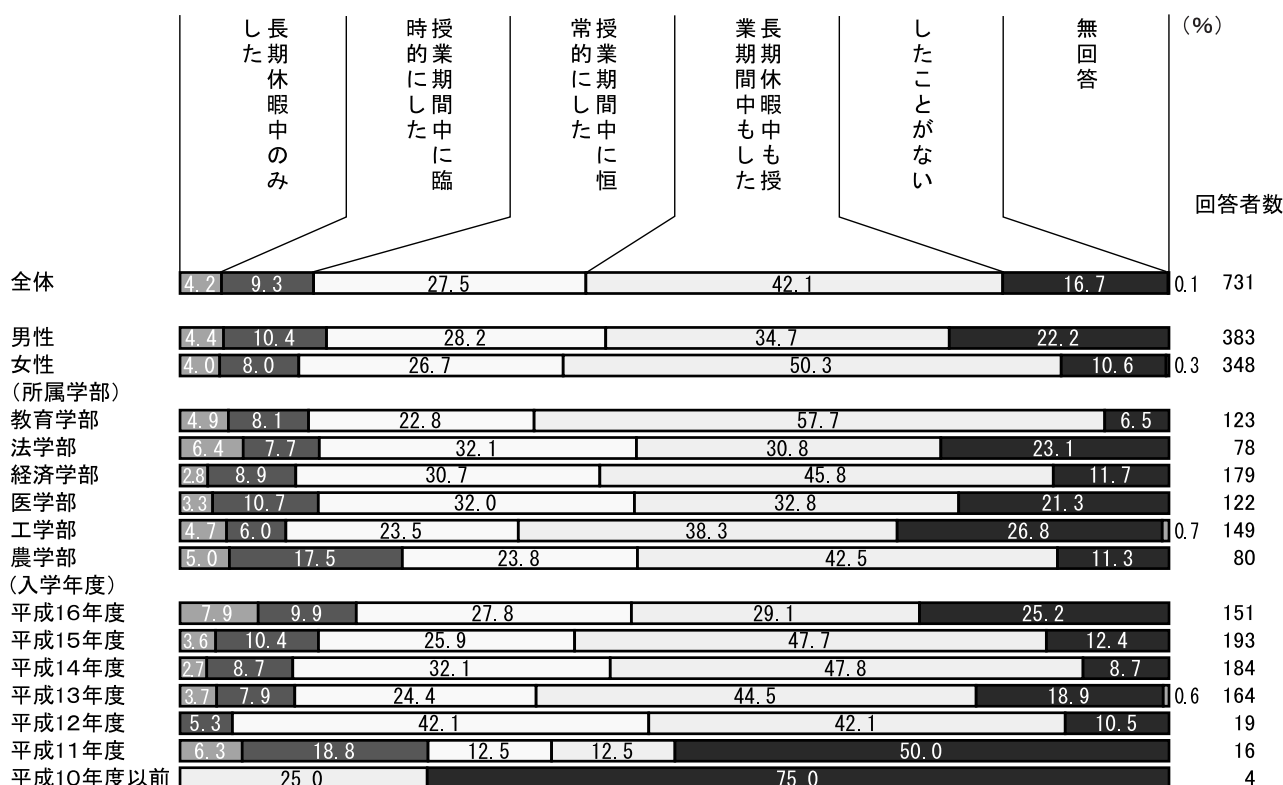
何らかの形で8割以上の者がアルバイトを経験しており、それ以前の年度とほぼ同じ傾向を示しています。

全体の結果では一時的、恒常的を問わずアルバイトを経験している者は83.1%であります。その中でも恒常的に行っている者が69.6%と最も多く、その内訳は「授業時間中も長期休暇中も行った」者が42.1%、次いで「授業時間中に恒常的に行った」者が27.5%となっています。また、女子学生においては「授業時間中も長期休暇中も行った」者が男子学生よりもさらに多くなっています。

学部別の結果では「アルバイト経験の無い」者が工学部、法学部、医学部においては26.8%～21.3%と多い傾向が見られます。

入学年度別の結果では「アルバイト経験の無い」者が1年次においては25.2%と多く、4年次の時も18.9%と再び多くなっています。また、6年次（主に医学部）では約半数の者がアルバイトを行っていません。

〈図116〉 問77 あなたは最近1年間にアルバイトをしましたか。



(2) アルバイトの職種

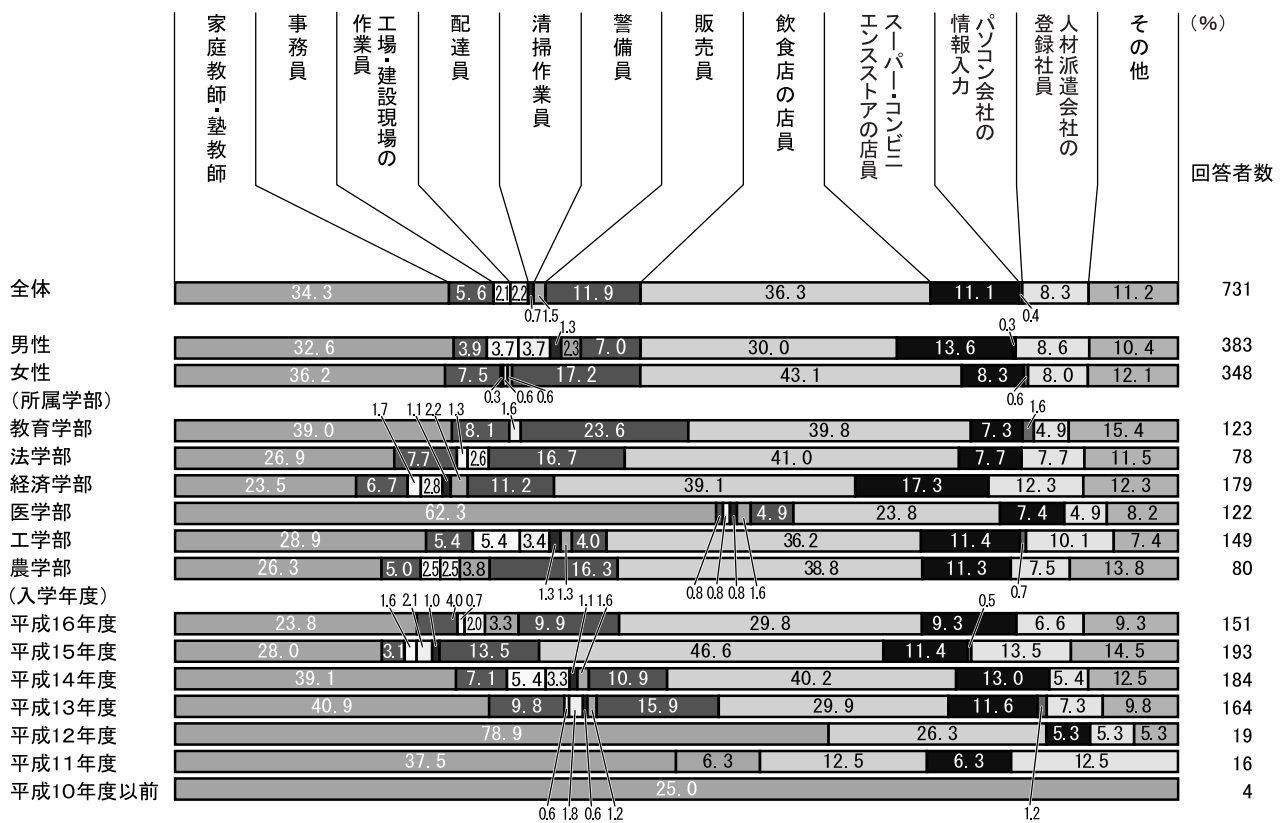
「飲食店、コンビニ等の店員」が1位で、「家庭教師・塾教師」が2位となっています。

全体の結果では「飲食店店員」が36.3%であり、「コンビニ店員」の11.1%と合わせると47.4%と店員が最も多く、「家庭教師・塾教師」が34.3%とその順位が昨年から一昨年以前と逆転しています。

学部別では医学部では「家庭教師・塾教師」が62.3%と他の学部とは大きく異なっています。

入学年度別では1年次では「店員」と「家庭教師・塾教師」がほぼ同じですが、2年次では「店員」が多くなり、3年次ではほぼ同数、4年時では「家庭教師・塾教師」が多くなっています。また、5年時（主に医学部）では78.9%が「家庭教師・塾教師」となっています。

〈図 117〉 問 78 あなたが主に従事する又は従事したアルバイトを、次のうちから二つまで選んで教えてください。



(3) アルバイト収入の使途

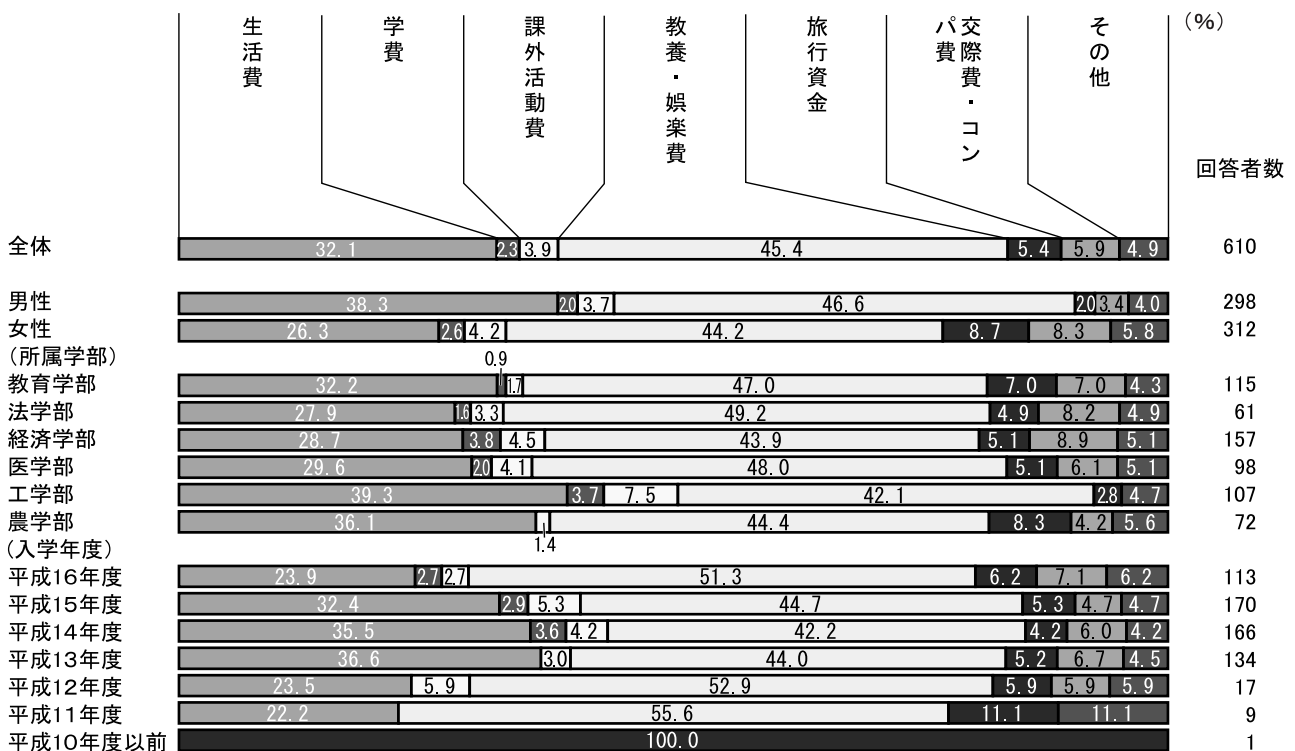
アルバイト収入の主な使途は「教養・娯楽費」と「生活費」です。

全体の結果では第1位である「教養・娯楽費」の45.4%と第2位の生活費の32.1%で大部分を占めています。また、「生活費」においては男子学生の38.3%が女子学生の26.3%を10ポイント上回っている一方で、「旅行資金及び交際費・コンパ費」においては女子学生のそれは8.7%、8.3%と男子学生に比べてそれぞれ6.7および4.9ポイント高くなっています。

学部別では工学部においては「生活費」が39.3%と他の学部にはやや高い一方で「教養・娯楽費」が42.1%とやや低くなっています。

入学年度別では2～4年次において「教養・娯楽費」が40%台で、「生活費」が30%台であるのに対し、1年次5～6年次では「教養・娯楽費」が50%台に上昇する一方で、「生活費」が20%台と低くなっています。

〈図 118〉 問 79 アルバイト収入の主な使途は何ですか。次のうちから一つ選んで教えてください。



(4) アルバイトに費やす時間 (授業期間中)

週あたりのアルバイト時間は「4～6時間」及び「2～4時間」の学生が多い一方で「10時間以上」の学生もかなりいます。

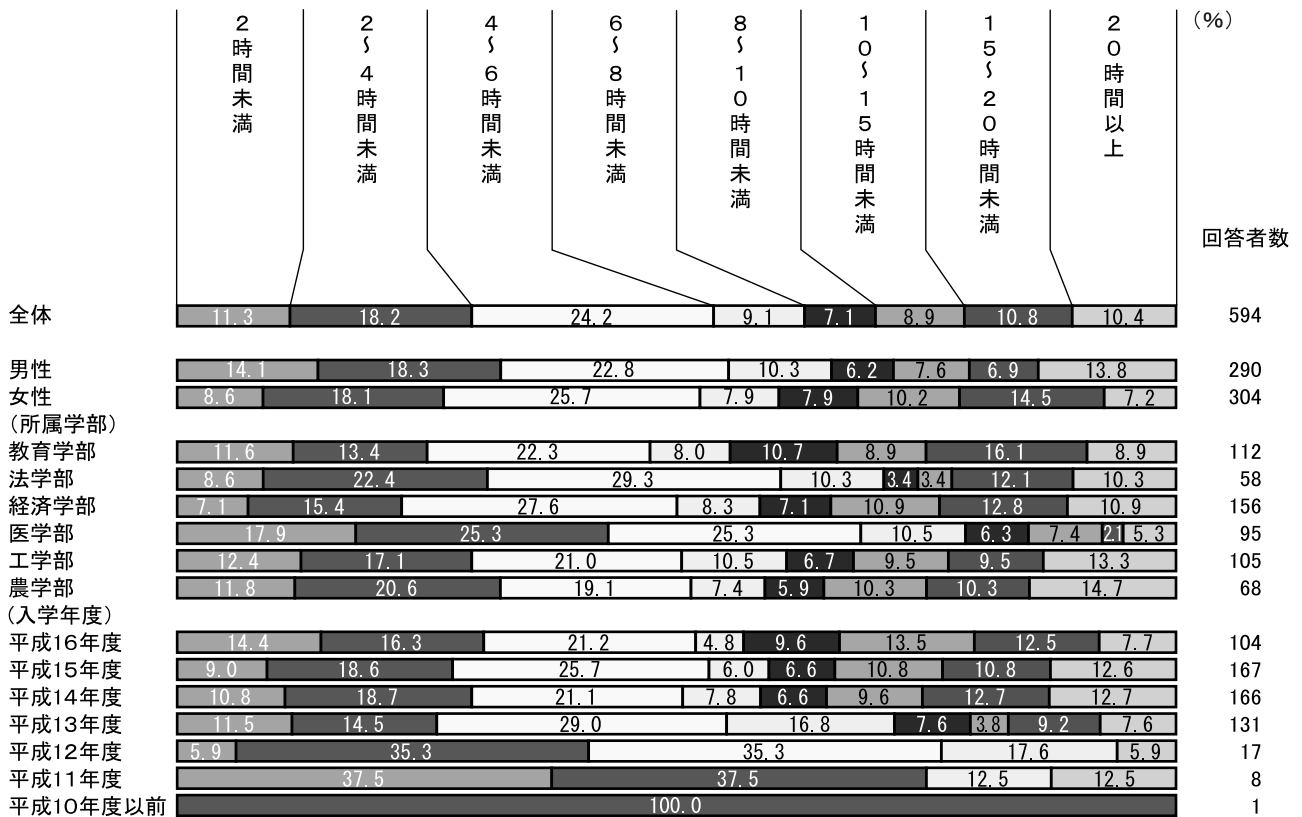
全体の結果では週あたり「4～6時間」が24.2%、これに次いで「2～4時間」が18.2%となっています。その一方で「10時間以上」の学生も約30%います。

学部別で見ると「週4～6時間以下」でアルバイトをしている学生の割合が法学部と医学部ではそれぞれ60.3%と68.5%であり、他の学部が約50%であるのに比べ多くなっています。

入学年度別に見ると「週4～6時間以下」でアルバイトをしている学生の割合は1～3年次では約50%であるのに対し、4年次では55.0%とやや増えており、5～6年次では約77%とさらに増加しています。

〈図119〉 問80 アルバイトに費やす時間はどれぐらいですか。(通勤時間を含め、1週間当たりの平均)

①授業期間中



(5) アルバイトに費やす時間（長期休暇中）

長期休暇中は「週 20 時間以上」のアルバイトをしている人の割合が最も多くなっています。

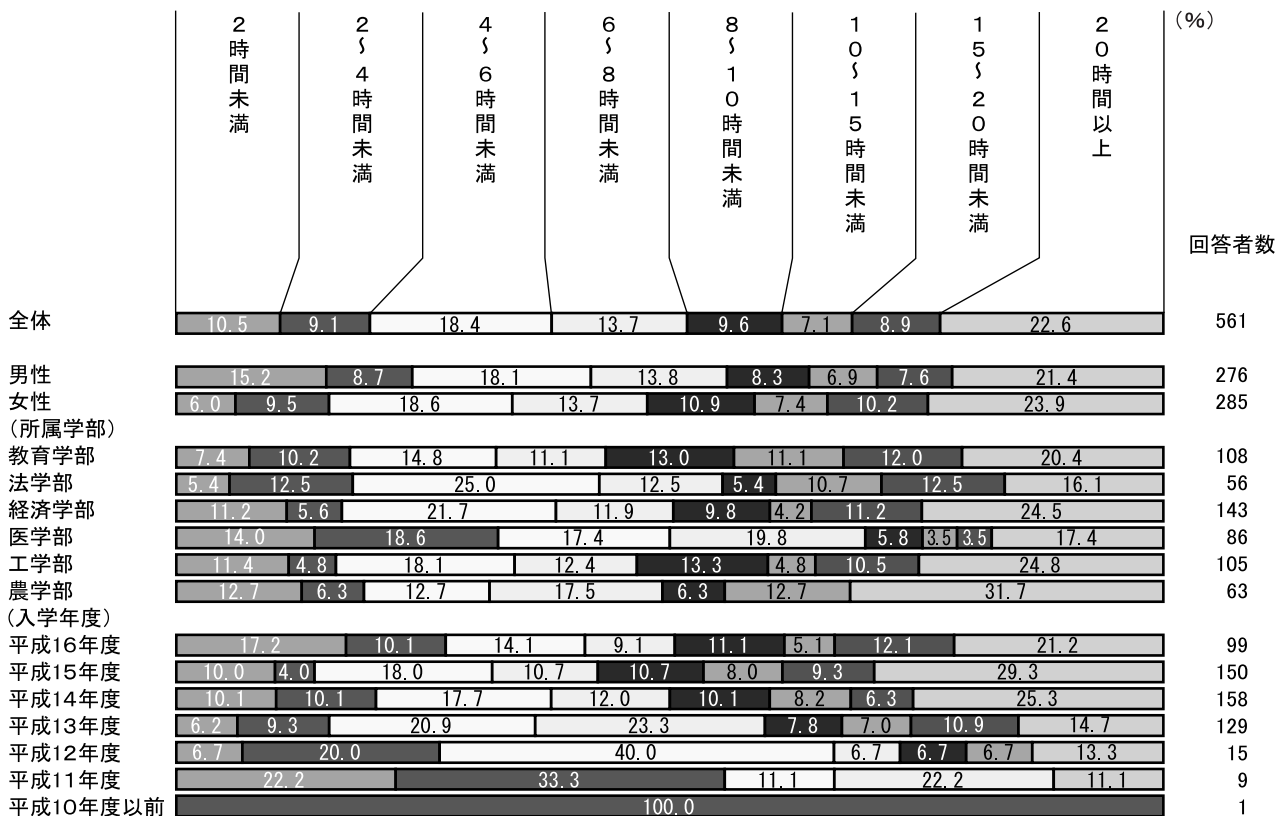
全体の結果では「週 20 時間以上」の割合が 22.6 %、次いで「4～6 時間」が 18.4 %となっています。また、男女の比較では女子学生の方が「週 8 時間以上費やす」者がやや多い傾向に有ります。

学部別では農学部においては「週 20 時間以上」の者が 31.7 %など長時間をアルバイトに費やす者の割合が多い傾向に有り、その一方で法学部および医学部では短時間を費やす者の割合が多くなっています。

入学年度別で見ると「週 8 時間以下」であった者が 1 年次では約 50 %であります。2 年次ではやや長時間の者が増え、3 年次では再び 50 %となった後、4 年次では 60.7 %と多くなっています。また、5～6 年次では「週 8 時間以下」の者がそれぞれ 80.1 %および 88.9 %とこの傾向がさらに強くなっています。

〈図 120〉 問 80 アルバイトに費やす時間はどれぐらいですか。(通勤時間を含め、1 週間当たりの平均)

②長期休暇中



(6) アルバイトと学業の関係

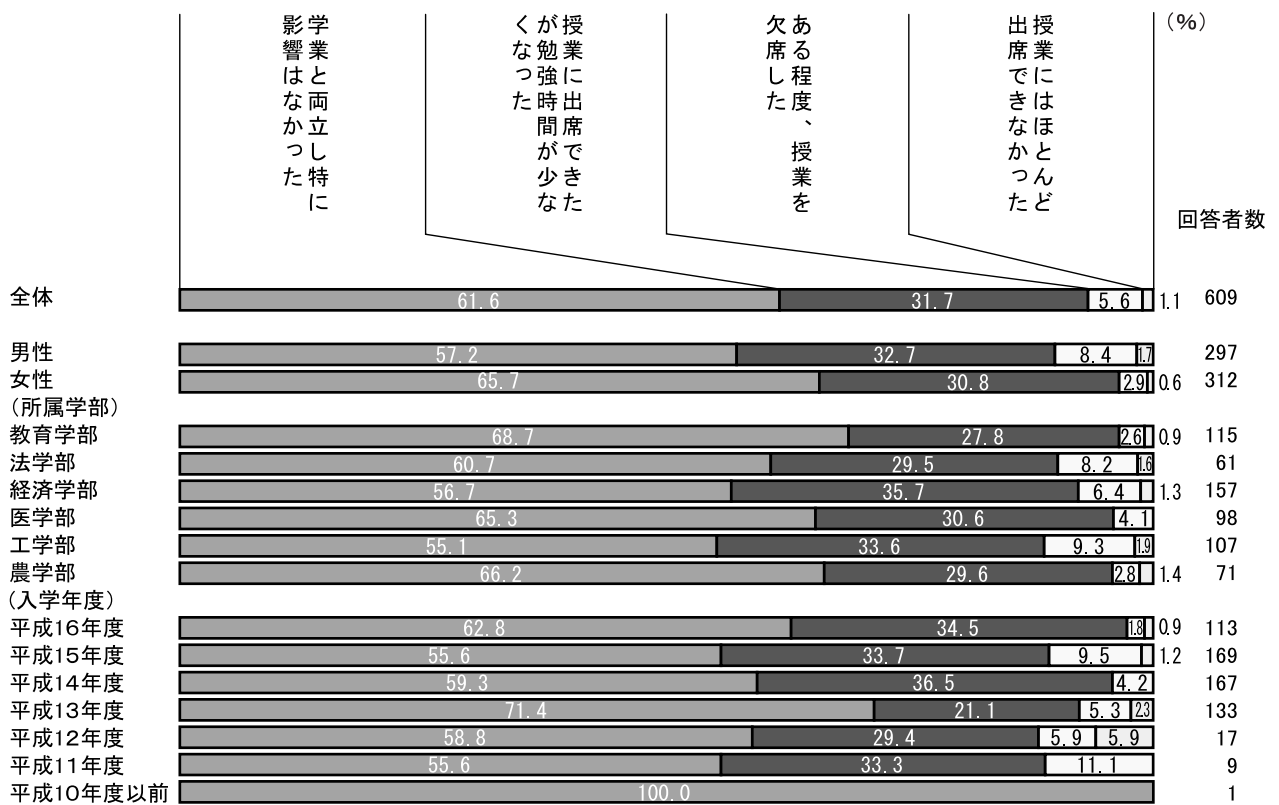
ほとんどの学生はアルバイトと学業を両立しています。

全体の結果では「学業と両立し特に学業に影響は無かった」者が61.6%、「授業に出席できたが勉強時間が少なくなった」者が31.7%、合わせて93.3%が両立をしています。男女を比べると女子学生の方が両立させている傾向がさらに強くなっています。

学部別では法学部及び工学部において「ある程度授業を欠席した」者の割合が8.2%および9.3%と少し高くなっています。

入学年度別では1年次においては比較的授業に出ています、2年次では「ある程度・ほとんど授業を欠席した」者が10.7%と少し増えますが、3年次では再び少なくなっています。

〈図 121〉 問 81 アルバイトと学業の関係はどうでしたか。



(7) アルバイトの紹介者

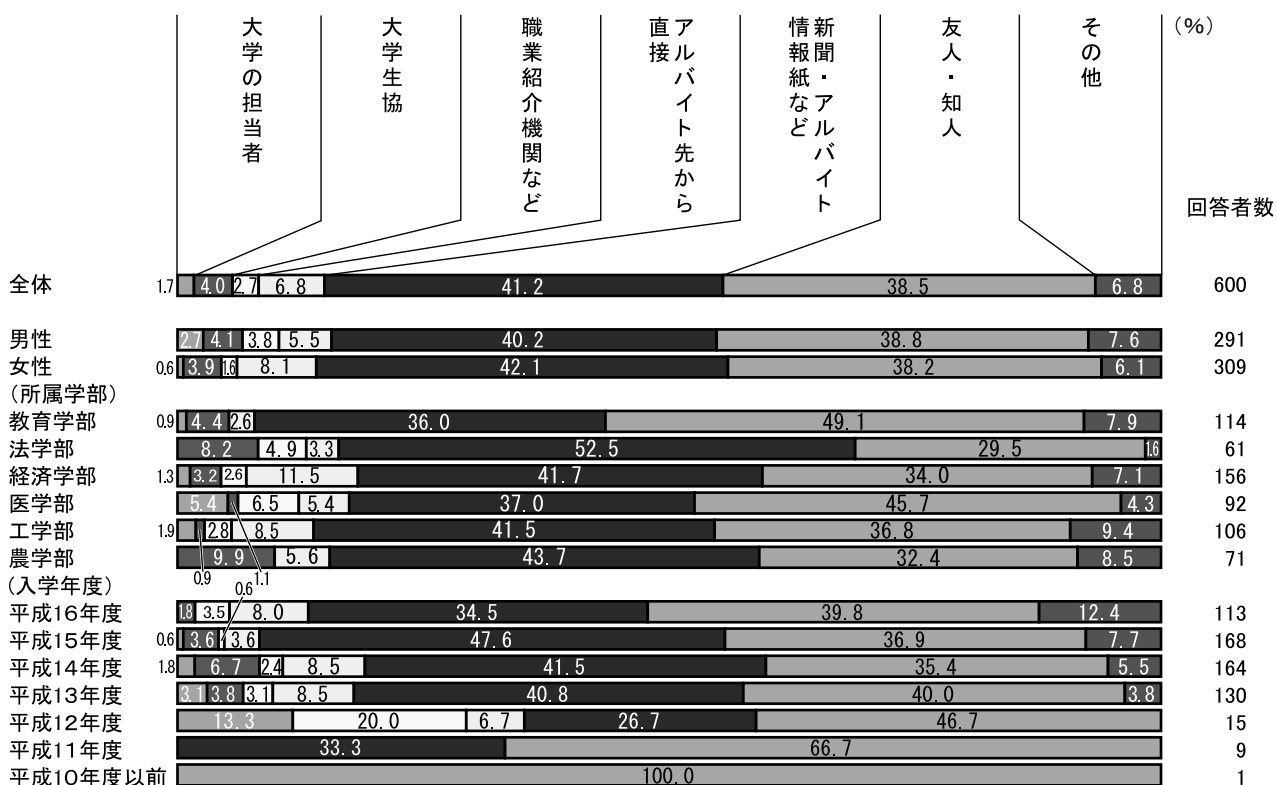
「新聞・情報誌による」者が41.2%，次いで「友人・知人による」者が38.5%と大部分を占めています。

全体の結果で見ると「新聞・情報誌による」者が41.2%，次いで「友人・知人による」者が38.5%と大部分を占め、男女においても大差ありません。

学部別に見ても上記の傾向は同じであります。法学部においては「情報誌による」者が52.5%と他の学部と比べて多くなっています。

入学年度別では5年次の「職業紹介機関による」者が20%，また、6年次の「友人・知人による」者が66.7%と他の学年と比べて大きく異なっています。

〈図 122〉 問 82 アルバイトの紹介者はだれですか。次のうちから一つ選んで教えてください。



(8) アルバイトを選ぶ基準

「給料が良い事」が主基準であるが「楽である事」や「おもしろい仕事や好きな仕事である事」も加味されています。

全体の結果では「給料が良い事」が31.5%、次いで「楽である事」の17.4%、さらに「おもしろい仕事や好きな仕事である事」の13.1%が続いています。特に女性では「おもしろい仕事や好きな仕事である事」の方が「楽である事」よりも若干ではあるが上回っています。

学部別では医学部においては「給料が良い事」が54.1%と「楽である事」の10.2%、や「面白い事や好きな事であること」の9.2%を大きく上回っています。また、教育学部においては「おもしろい仕事や好きな仕事である事」が25.4%と、経済学部においては「楽である事」が24.2%と他の学部比べて高くなっています。

入学年度別で見ると5・6年次において「給料が良い事」が58.8%および44.4%と医学部学生が主であるため、高くなっています。

〈図 123〉 問 83 あなたがアルバイトをしたとき、何を基準にして仕事を選びましたか。次のうちから一つ選んで教えてください。



5. ボランティア活動

(1) ボランティア活動の経験

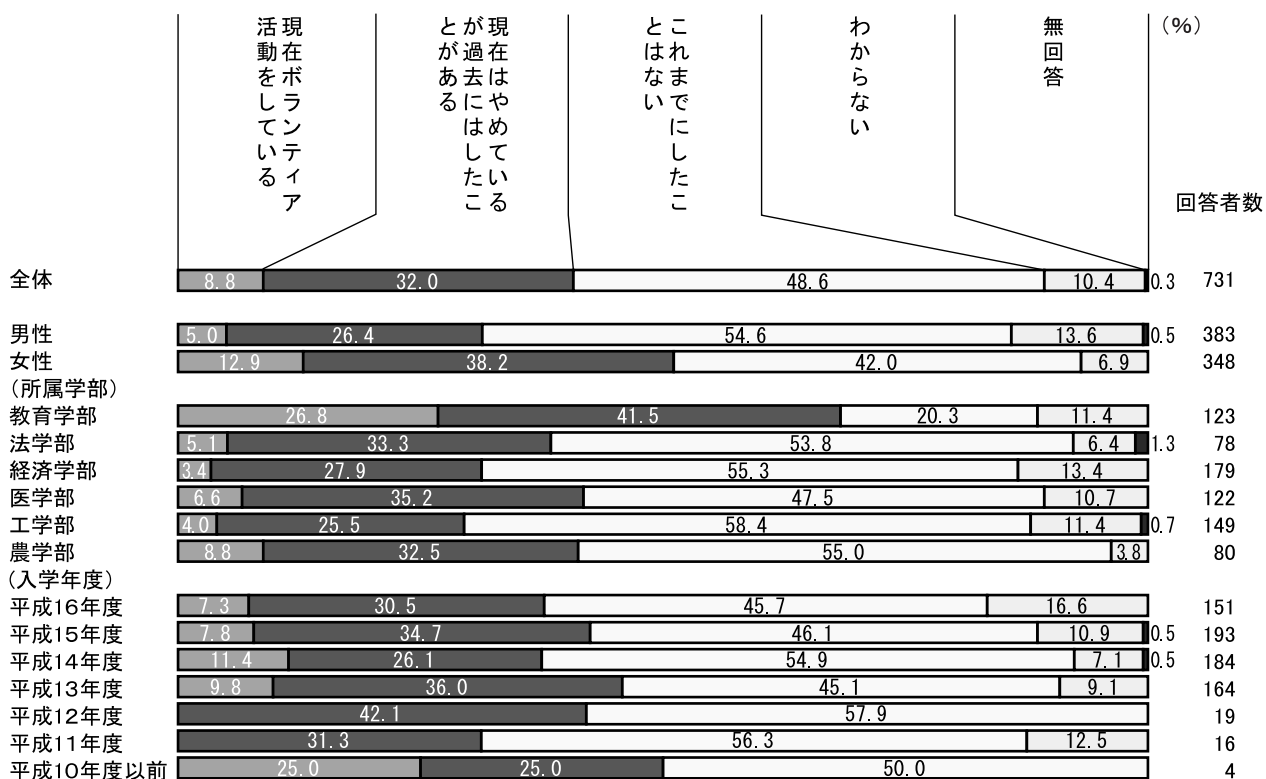
未経験者が48.6%と最も高く、「過去にした事の有る」者が32%、さらに「現在行っている」者はわずか8.8%であります。

ボランティア活動については未経験者が48.6%と最も高く、「過去にした事の有る」者が32%、さらに「現在行っている」者はわずか8.8%であります。男女別では女子の方が現在行っている者と過去の経験者を合わせると約50%と男子の31.4%を大きく上回っています。

学部別では教育学部では現在および過去の経験者を合わせると68.3%と他の学部比べて圧倒的に高くなっています。

入学年度別では5～6年次では「現在行っている」者は0%であります。また、本来は学年が進むにつれて現在および過去の経験者の総和は増えるべきなのに、その傾向が見えないという事は大学入学以後には余り行われていない可能性があります。

〈図124〉 問84 ボランティア活動をしたことがありますか。



(2) ボランティア活動の内容

「社会福祉関係」が第1位、「教育・文化関係」が第2位、「自然・環境保護関係」が第3位であります。

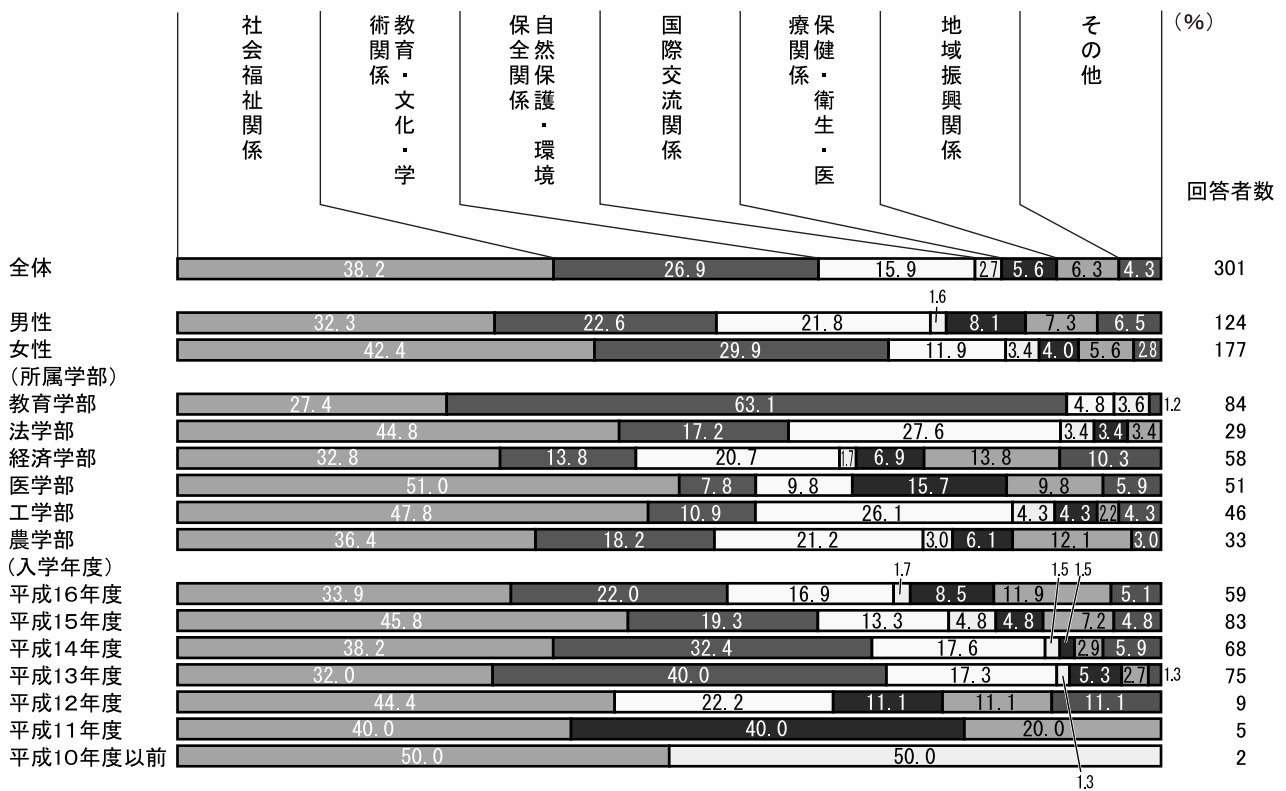
全体の結果では主な物は「社会福祉関係」の38.2%、「教育・文化関係」の26.9%、「自然・環境保護関係」の15.9%であります。男女別ではやはり女子は「社会福祉関係」が42.4%と非常に高い一方で男子は「自然・環境関係」が21.8%と高くなっています。

学部別では教育学部が「教育・文化関係」が63.1%と非常に高いのが特徴であり、医学部、工学部、法学部においては「福祉関係」が多くなっています。

入学年度別では4年次生までは学年が進むごとに「教育・文化関係」が多くなっていく傾向が見られます。

〈図125〉 問85 問84で「1」又は「2」と回答した人のおたずねします。

(1) そのボランティア活動の内容を、次のうちから一つ選んで答えてください。



(3) ボランティア活動の年間活動日数

「3日以内」が最も多く、活動日数が多くなるにつれて人数が減少しています。

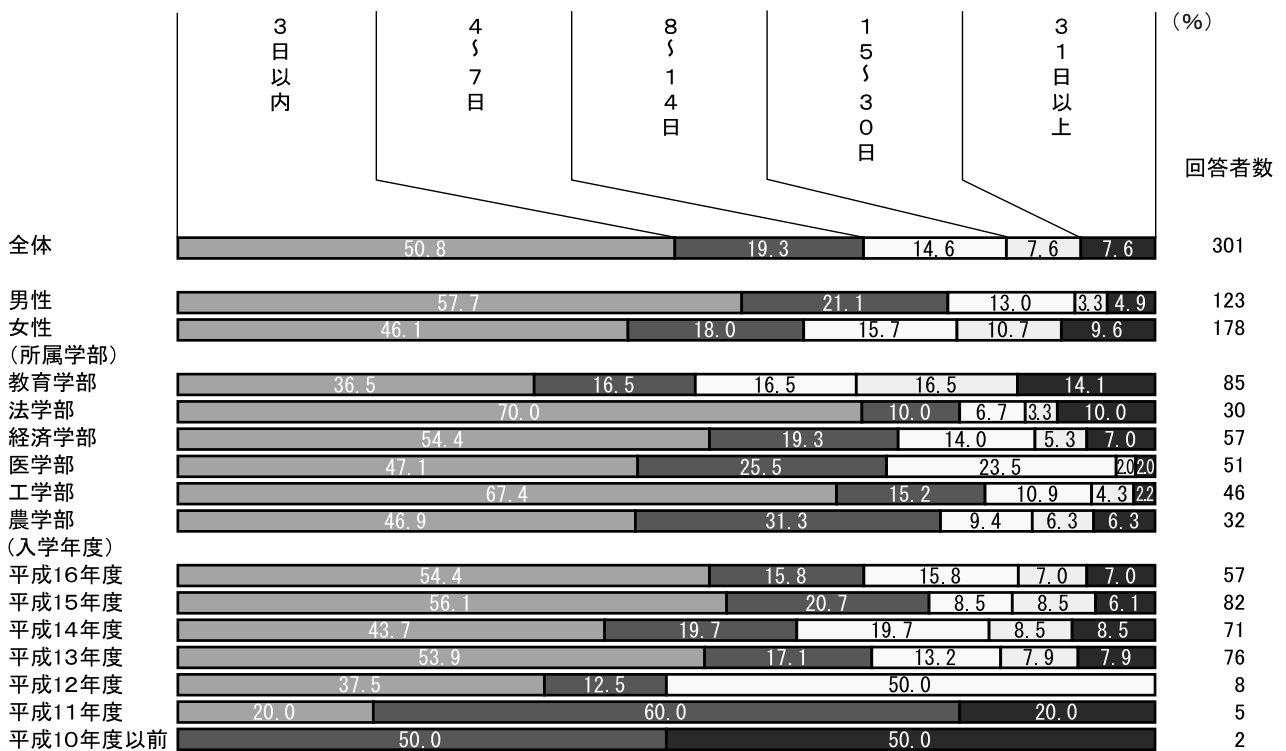
全体では「3日以内」が50.8%であり、「4～7日」が19.3%、「8～14日」が14.6%と日数が増えるにつれて、だんだん人数は減少していますが、「31日以上」の者も7.6%います。男女別では女子の方がボランティア活動の日数がやや多い傾向にあります。

学部別では教育学部では活動日数が他の学部比べて一般に多く、「31日以上」の者も14.1%となっています。

入学年度別では4年次生までは余り差はみられません。5～6年次生は母集団が小さいので不明であります。

〈図126〉 問85 問84で「1」又は「2」と回答した人のおたずねします。

(2) そのボランティア活動の年間の活動日数を次のうちから一つ選んで答えてください。



(4) ボランティア活動への関心

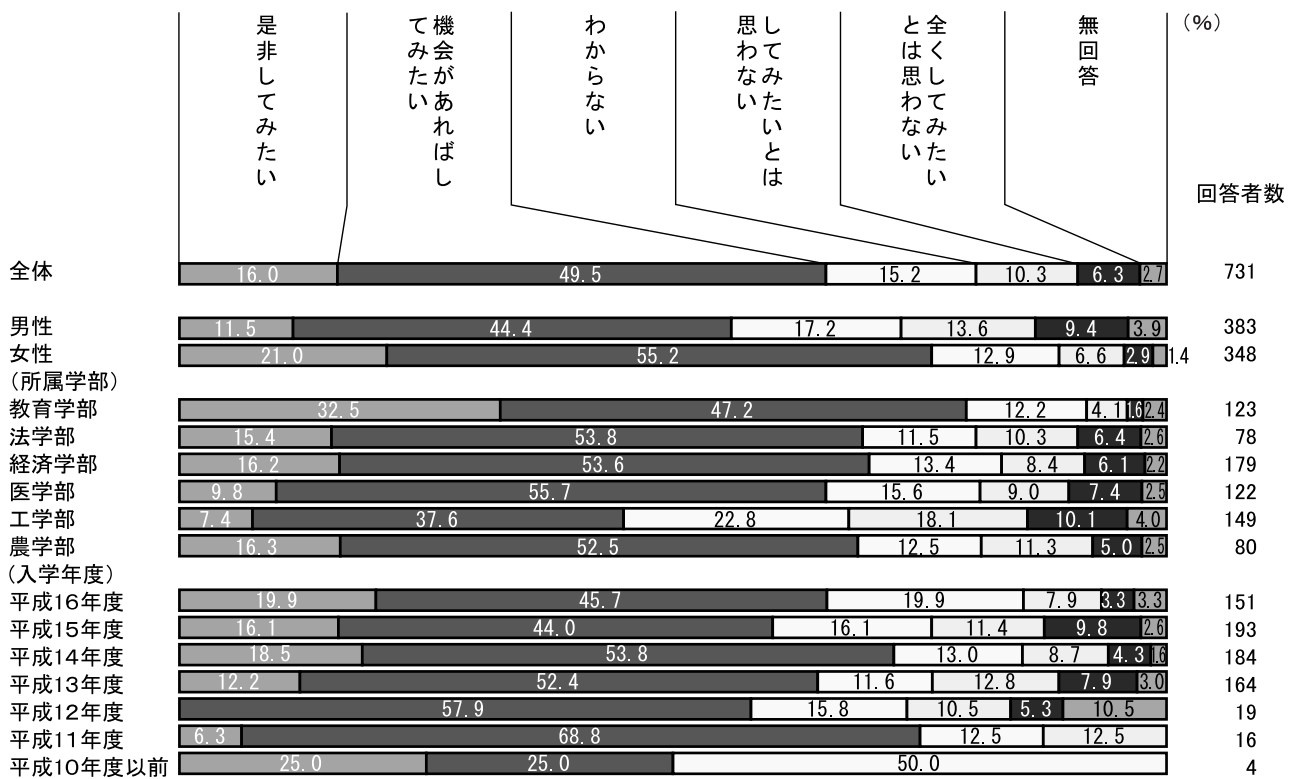
ボランティア活動に関心を持っている者が65.5%います。

全体では「機会があればしてみたい」の49.5%と「是非してみたい」の16%の計65.5%の者が関心を持っています。特に女子ではこの関心を持っている者は76.2%に上ります。

学部別では教育学部では「機会があれば」と「是非」を合わせた関心を持っている者が79.7%、と非常に高くなっている一方で、工学部では45%と低くなっています。

入学年度別では2年次生および5年次生がやや低い傾向が見られます。

〈図 127〉 問 86 ボランティア活動を今後したいと思いませんか。



(5) 今後やってみたいボランティア活動

「自然保護・環境保全関係」に次いで「社会福祉関係」の希望が多く
なっていますが、全体としては色々な内容を希望しています。

全体の結果では「自然保護・環境保全関係」23.6%、次いで「社会福祉関係」21.1%となっていますが、その他の項目にも希望者が分散しています。男子では「自然保護・環境保全関係」が33%とかなり高いのに対し、女子では比較的万遍に希望者が分散しています。

学部別では教育学部の「教育・文化・学術関係」が44%、医学部の「保健・衛生・医療関係」が49.4%、工学部および農学部の「自然保護・環境保全関係」がそれぞれ38.8%、および48.1%と高いのが目立っています。

入学年度別では4年次までは余り大きな違いは見られませんが、5・6年次は医学部生が主体のため「保健・衛生・医療関係」が45.5%および63.6%と非常に高くなっています。

〈図128〉 問87 問86で「1」または「2」と回答した人のおたずねします。

今後やってみたいと思うボランティア活動の内容を、次のうちから一つ選んで教えてください。

